

第2学年

教養系教育・基礎科学教育科目

社 会 学	88
情報リテラシーⅡ	89
英 語 Ⅱ	91
読解力向上演習	92
物 理 学	93
化 学	94
生 物 学	96
基礎歯学概論Ⅱ	97
臨床心理学Ⅱ	98
歯科医療人間学Ⅱ	99

生命科学教育科目

口 腔 解 剖 学	101
口腔解剖学実習	102
解 剖 学	103
解剖学実習	105
口 腔 組 織 学	106
口腔組織学実習	108
口 腔 生 理 学Ⅰ	110
口腔生理学実習	112
口 腔 生 化 学Ⅰ	113
口腔感染免疫学Ⅰ	114
歯 科 薬 理 学Ⅰ	115
生体材料・歯科材料学Ⅰ	116
公 衆 衛 生 学	118
総 合 演 習 2 D	119

社会学（通年・2単位）

D①②-1003

科目責任者：高橋 嘉代（非常勤）

科目担当者：①高橋 嘉代（非常勤）

1. 科目の概要

この授業においては、科学的・合理的な世界観をもとに構成されている現代社会で発生する社会現象に対する客観的な分析視角を身につけることを目的とする。

前半15回の授業では、社会学的な視角と社会学の基礎理論を学ぶことを目標として、社会学の領域において特に議論が深められてきた分野を多角的に学習する。

後半の15回では、前半で取り上げた社会学の基礎理論を展開させながら、本学ディプロマポリシー1の「倫理とコミュニケーション」の実現をめざし、今とこれからの医療・福祉について重要な論点を提示するトピックに関する様々な議論について学ぶ。

以上の学習を通して、本学ディプロマポリシー6「奥羽プロフェッショナルリズム」の「超高齢社会の問題と課題を分析し、ニーズを抽出して解決策を立案できる」ことに資するであろう社会学的な思考力・分析力の獲得をめざす。

2. 一般目標

現代社会における様々な課題への関心と分析力を涵養するために、社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながりに関する今日的な課題について分析・考察できるようになる。

3. 到達目標

- 1) 社会学の基礎概念を学び、理解する。
- 2) 社会学の成立過程について学ぶことを通して、近代社会の形成過程についての認識を深める。
- 3) 健康・疾病と生活についての基礎理論を学ぶ。
- 4) 医療者および生活者として、社会学的な分析力及び考察力を身につける。

4. 履修の進め方

授業は講義形式で行い、配布資料とスライドとを適宜用いる。授業の際に簡単な課題（所要時間10分程度）を課す。

5. 準備学修

講義科目は社会学だが、法学、心理学、文化人類学等の他の社会科学領域との関連は深い。また、授業の内容に関連した各種政府統計（人口動態調査など）についても紹介する予定である。事前の予習はとくに必要はないが、授業中に紹介した事項について学修後に再度確認されたい。

授業内容として紹介した各種統計のソースを確認しておくこと（15分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）。100点満点中65点以上を合格とする。試験時は授業で配布した資料に限り持ち込み可。

7. 教本

なし。教員作成の資料を配布する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	近代社会の形成と社会学の誕生	近代社会と社会学の形成過程を学ぶ。		①
2	4／15	社会の作りをどう見るか	社会学の基礎理論を学ぶ。		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／22	自我と役割	自我論・役割論について学ぶ。		①
4	4／27 (月)	相互行為と社会	相互行為論について学ぶ。		〃
5	5／13	家族の構造と機能	家族類型と家族の機能について学ぶ。		〃
6	5／20	地域社会とその変動	地域社会の構造と変動について学ぶ。		〃
7	5／27	人口と社会	人口から見た社会の構造について学ぶ。		〃
8	6／3	教育と労働	社会における教育と労働の機能を学ぶ。		〃
9	6／8 (月)	社会移動と社会階層	社会移動と社会階層について学ぶ。		〃
10	6／10	集団と組織	社会集団と組織についての理論を学ぶ。		〃
11	6／17	メディアと社会	社会学におけるメディア論について学ぶ。		〃
12	6／24	社会的役割としての性別	ジェンダー(社会的性)について学ぶ。		〃
13	7／1	社会問題と逸脱	社会問題と逸脱についての理論を学ぶ。		〃
14	7／8	社会関係資本と公共圏	社会関係資本と公共圏について学ぶ。		〃
15	7／15	グローバル化とリスク社会	グローバル化の展開と影響を学ぶ。		〃
16	9／2	現代社会と医療・看護・福祉	現代社会における医療・看護・福祉について概観する。		〃
17	9／9	社会的行為としてみた医療	医療を社会的行為の一つとして把握する。		〃
18	9／16	社会的行為の場としてみた医療施設	社会的行為が行われる時空間としての医療施設について学ぶ。		〃
19	9／23	役割と医療	いわゆる役割論の知見から医療の現場における医師・患者役割について学ぶ。		〃
20	9／30	専門職と医療	社会学における専門職についての議論から医療職について考察する。		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21	10/7	感情労働と医療	医療の現場における感情労働について学ぶ。		①
22	10/14	「医療化」と医療	従来は医療的領域の外にあった様々な現象が、医療的現象として再定義されることについて学ぶ。		〃
23	10/21	「病気」というカテゴリー	文化人類学の知見から、人はいかに「病気」というカテゴリーを定義してきたかについて学ぶ。		〃
24	10/28	社会保障と医療	近代国民国家における社会保障と医療の仕組みを概観する。		〃
25	11/4	社会保障と公的扶助	近代国民国家における公的付与の制度的・思想的展開を学ぶ。		〃
26	11/11	学校と医療	疾病構造の変化が及ぼした影響を学校と医療との関わりから学ぶ。		〃
27	11/18	「健康」であることの「目的」	健康であることが社会的に望ましい状態として扱われるようになった背景について学ぶ。		〃
28	11/25	社会的装置としての健診・検診	健診・検診がどのような社会的機能を付与されつつ消費されているかについて学ぶ。		〃
29	12/2	病と老いの語り	病い・老いを語ることにについて考察する。		〃
30	12/9	死をめぐる認識	死をめぐる認識文脈の変遷について学ぶ。		〃

情報リテラシーⅡ（通年・1単位）

D①②-1002

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②阿部 匡聡（化学）、
③石田 喜紀（材料）、④大須賀謙二（生理）、
⑤中川 敏浩（組織）、⑥前田 豊信（生化）、
⑦茂呂祐利子（放射）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

コンピュータの操作を習熟し、学習にも応用することは必須である。そこで、学習効率を向上させるためにチュートリアル教育の要素も取り入れた環境下で学生個人がコンピュータを用いて、歯学基礎系科目の問題作成を行う。次に、他の学生が作成した問題のブラッシュアップを行い、グループ内で検討する。最後にグループ内で選択した問題について教員が解説を行い、フィードバックするとともに形成的評価を行う。各科目の内容について講義3回を1つのセッションとして演習を中心とした学習を行う。

2. 一般目標

コンピュータを駆使して問題作成、ブラッシュアップを行い、さらに教員からの問題解説を受講することで歯学基礎科目の「知識」をより深く理解する。

3. 到達目標

- 1) 各科目の課題に対して的確な問題を作成する。
- 2) 問題を的確に説明する。
- 3) 他学生が作成した問題に対して的確な意見を述べる。

4. 履修の進め方

コンピュータを用いて、出された課題について学生個人で問題を作成し、その問題に対するブラッシュアップを行う。学生により選択された問題ファイルは「学習支援システム」にアップロードする。各セッション最終回で学生により選択されたブラッシュアップ問題に対して教員から解説を行うとともに、教員による更なるブラッシュアップを行った問題により試験を行う。

5. 準備学習

問題作成およびブラッシュアップはいずれも講義時間内に行う。ブラッシュアップした問題を学習資料提示システムにアップロードするので、事後学習としてすべての課題について確認すること（事後復習：30分）。

6. 評価方法

3コマ毎にテストを行い合計が65点以上を合格とする。CBT-Medicalで正答を開示するので、講義時間内に各自でフィードバックを行う。

7. 教本

和泉博之 他 編 「ビジュアル生理学・口腔生理学」
第3版 学建書院 2017
森本俊文 他 編 「基礎歯科生理学」第6版 医歯薬出版
2014
磯川桂太郎 他 著 「組織学・口腔組織学」
第3版 わかば出版 2010
明坂年隆 他 著 「カラーアトラス 口腔組織発生学」
第3版 わかば出版 2009
伊興田正彦 他 著 「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店
2013
安孫子宣光 他 著 「スタンダード生化学・口腔生化学」
第3版 学建書院 2016
中嶋 裕 他 著 「スタンダード歯科理工学」 第6版
学研書院 2016
口腔解剖学・解剖学講義配布プリント

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	人体の生理	人体の機能に関する問題作成	C-3-4), E-2-1), 2) / 総Ⅱ-1-ア～ ケ, 6-ア～オ	① ② ④ ⑦
2	4/17	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
3	4/24	〃	問題解説	〃	〃
4	5/8	人体の微細構造	人体の微細構造に関する問題作成	C-2-3) / 総 Ⅱ-1-ア～ク	① ② ⑤ ⑦
5	5/15	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
6	5/22	〃	問題解説	〃	〃
7	5/25 (月)	生体分子	生体分子の構造と性質に関する問題作成	C-2-1), C-2-2) / 必 5-ア	① ② ⑦
8	5/29	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
9	6/5	〃	問題解説	〃	〃
10	6/12	歯の形態	歯の形態に関する問題作成	E-3-1) / 総 Ⅱ-5-ア	〃
11	6/19	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
12	6/26	〃	問題解説	〃	〃
13	7/3	人体の機能	遺伝子に関する問題作成	必-5-ア-b / C-2-1, C-2- 2	① ② ⑥ ⑦
14	7/10	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
15	7/17	〃	問題解説	〃	〃
16	9/4	口腔の生理	口腔の生理に関する問題作成	C-3-4), E-2-1), 2) / 総Ⅱ-1-ア～ ケ, 6-ア～オ	① ④ ⑦
17	9/11	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
18	9/18	〃	問題解説	〃	〃
19	9/25	口腔の微細構造	口腔の微細構造に関する問題作成	E-2-2), 3) E-3-1) / 総 論Ⅳ-4-ア～ オ, キ, ケ, コ	① ⑤ ⑦
20	10/2	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
21	10/9	〃	問題解説	〃	〃
22	10/16	頭頸部の構造	頭頸部の構造に関する問題作成	E-2-2) / 総 Ⅱ-4-ア～キ	① ⑥ ⑦

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
23	10/23	頭頸部の構造	作成した問題のブラッシュアップ	E-2-2) / 総 Ⅱ-4-ア～キ	① ⑥ ⑦
24	10/30	〃	問題解説	〃	〃
25	11/6	人体の機能	酵素・代謝・ホルモンに関する問題作成	必-5-ア-a, e / コ:C-2-1, C-2-4	〃
26	11/13	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
27	11/20	〃	問題解説	〃	〃
28	11/27	歯科材料の諸性質	歯科材料の諸性質に関する問題作成	D-1, 2 / 総 Ⅷ-1-ア～イ	① ③ ⑥ ⑦
29	12/4	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃	〃
30	12/11	〃	問題解説	〃	〃

英語Ⅱ（通年・1単位）

D①②-1001

科目責任者：長峯 英樹（英語・講師）

科目担当者：①長峯 英樹（英語）

※この科目は、一般企業勤務経験のある教員が担当する

1. 科目の概要

本講義では、国内外で論争となっている様々な社会問題の背景知識について英語で学び、論理的に自分の意見を述べる発信力を身につける。そして、課題テーマについてグループで調査し、英語での発表を経験する。

2. 一般目標

英語の理解スピードと精度を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習する。自分の意見を述べるときに役立つ表現を数多く覚える。

3. 到達目標

- 1) 国内外の社会問題の背景を英語で学び、語彙・構文、時事表現を覚える。
- 2) 基礎文法を復習し、表現方法の細かなニュアンスを理解できるようにする。
- 3) 論争テーマに関する賛成・反対の争点を英語で理解できるようにする。
- 4) 自分の意見を英語で論理的に述べる発信力を身につける。
- 5) 大手メディアで報道される海外の時事ニュースに慣れる。
- 6) 関心テーマについてグループで調査し、英語で発表する経験を積む。

4. 履修の進め方

履修前半は基礎的な英語力向上を目的とし、英文の音読とサイトトランスレーションを丁寧に行うことにより、頻出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。次に、テーマに対する賛否とその根拠について理解するとともに表現パターンを覚える。履修後半はプレゼンテーションスキルの向上を目的とする。

5. 準備学修

<予習>

①各Unitの英文の音声を聞いて、発音やリズムを確認(30分)

②語彙の意味を確認(30分)

<復習>

①講義で学んだ英文を、発音やリズム、意味などを確認しながらリスニング(30分)

<その他>

日常的に、映画や雑誌・新聞など、できるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

6. 評価方法

筆記試験(60%)、グループ・プレゼンテーション(20%)、出席および授業貢献度(20%)により評価し、65点以上で合格とする。筆記試験のフィードバックは基本的に次回講義時に解説し、最終試験は模範解答を全員に配布する。

7. 教本

植田一三, Take a Stance-Discussing Today's Controversial Issues 2, National Geographic Learning

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	Unit 1	SNS (1)		①
2	4/17		SNS (2)		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/24	Unit 2	Women-only Train Cars (1)		①
4	5/8		Women-only Train Cars (2)		〃
5	5/15	Unit 3	Eco-friendliness (1)		〃
6	5/22		Eco-friendliness (2)		〃
7	5/25 (月)	Unit 4	Online Gaming (1)		〃
8	5/29		Online Gaming (2)		〃
9	6/5	Unit 5	Democracy (1)		〃
10	6/12		Democracy (2)		〃
11	6/19	Unit 6	Casino Legalization (1)		〃
12	6/26		Casino Legalization (2)		〃
13	7/3	Unit 7	Part-time High Schoolers (1)		〃
14	7/10		Part-time High Schoolers (2)		〃
15	7/17	Unit 1-7	Review Test		〃
16	9/4	Unit 8	Globalization (1)		〃
17	9/11		Globalization (2)		〃
18	9/18	Unit 9	AI (1)		〃
19	9/25		AI (2)		〃
20	10/2	Unit 10	Gap Year (1)		〃
21	10/9		Gap Year (2)		〃
22	10/16	Unit 11	Big Government or Limited Government (1)		〃
23	10/23		Big Government or Limited Government (2)		〃
24	10/30	Unit 12	Homeless (1)		〃
25	11/6		Homeless (2)		〃
26	11/13	Unit 13	Juvenile Law (1)		〃
27	11/20		Juvenile Law (2)		〃
28	11/27	Unit 14	Immigration (1)		〃
29	12/4		Immigration (2)		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
30	12／11		Final Exam		①

読解力向上演習（前期・1単位）

D②－0306

科目責任者：本多 真史（日本語・講師）

科目担当者：①本多 真史（日本語・講師）

1. 科目の概要

歯科医師免許という「高度な資格」を取得するためには、国家試験への合格が必要不可欠とされている。歯科医師国家試験問題を解く際には、問題を正確に読み、内容をきちんと理解し、自らの考えを整理し、正しく答えられる力が必要になる。

本講義では、歯科医師国家試験問題を解く際に必要とされる「読解力」を培うことを目指す。1年時に習得した内容をもとに、より実践的な読解方法を身につける演習を行う。

2. 一般目標

問題を解く際に必要な「筋道を立てる」という基本姿勢、論理的な思考、記号読解などの技能を身につける。また、「問題文を読み、理解し、思考して問題を解く」という一連の行為が円滑にいくような能力を体得させる。加えて、国家試験で要求される「問題を時間内に正確に解く」力をも向上させる。

3. 到達目標

- 1) 重要語句等の、問題を解くために必要な基礎的な知識を身につける。
- 2) 論理構造を理解しつつ、問題を正確に読むことができる。
- 3) 問われている内容をきちんと理解することができる。
- 4) 自らの考えを整理し、解答への筋道を立てることができる。
- 5) 客観的に判断し、問題を解決することができる。

4. 履修の進め方

講義資料をもとに、講義および演習形式で読解力の育成を行う。

5. 準備学修

講義受講前に、シラバスで内容を確認し、それに関する事柄を理解しておくことが望ましい(所要時間5分前後)。また、講義受講後は、その内容を復習(所要時間30分前後)し、日頃から自然に実践できるように心がける。

6. 評価方法

記述式試験により形成的評価を行う。

7. 教本

指定しない。プリントを配布し、それに沿って進める。

8. 参考書

『AI vs 教科書が読めない子どもたち』、『日本語練習帳』、『国語が得意科目になる「印つけ」読解法』、『現代文キーワード読解』 など

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	オリエンテーション	練習問題を通して、「なんとなく解く」ことから脱却しよう		①
2	4／15	読解力向上演習(1)	単語に敏感になろう		〃
3	4／22	読解力向上演習(2)	文の構造をしっかりとらえられるようになろう		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	5 / 11 (月)	読解力向上演習(3)	段落と段落の「つながり方」を意識してみよう		①
5	5 / 13	読解力向上演習(4)	「印つけ」読解法を確実に身につけよう		〃
6	5 / 20	読解力向上演習(5)	文章を要約してみよう【要約実践演習①】		〃
7	5 / 27	読解力向上演習(6)	文章を要約してみよう【要約実践演習②】		〃
8	6 / 3	読解力向上演習(7)	文章を縮約してみよう【縮約実践演習①】		〃
9	6 / 10	読解力向上演習(8)	文章を縮約してみよう【縮約実践演習②】		〃
10	6 / 17	読解力向上演習(9)	きちんとした解答を作成しよう【記述式問題実践演習①】		〃
11	6 / 24	読解力向上演習(10)	きちんとした解答を作成しよう【記述式問題実践演習②】		〃
12	6 / 29 (月)	読解力向上演習(11)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう【マーク式問題実践演習①】		〃
13	7 / 1	読解力向上演習(12)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう【マーク式問題実践演習②】		〃
14	7 / 8	読解力向上演習(13)	「論理思考」を駆使し、実践力を高めよう【マーク式問題実践演習③】		〃
15	7 / 15	形成的評価	形成的評価試験を行う		〃

物理学（前期・2単位）

D③-1201

科目責任者：菊地 尚志（物理・教授）

科目担当者：①菊地 尚志（物理）

1. 科目の概要

物理学は自然界の最も基本的な現象について記述する学問です。それゆえ歯科医学でも物理学の知識を基にそれを応用している分野が多いです。1年生の物理学の教養科目「基礎物理学」を基に、歯科医学で物理学が応用されていることがらについて歯科の専門的な知識と関係づけながら授業を進めます。基礎物理学で学んだことを復習しながら、具体的には歯科材料学と歯科放射線学への応用事項について発展させます。

歯科材料学では物質の弾性の大きさについての理解が大切になります。国家試験でも歪み・応力曲線に関する問題が多く出されています。基礎物理学で学んだ原子の構造をもとに、クーロン力についての電磁気学を新たに学んで物質の弾性について理解を深めます。

歯科ではレントゲン写真は言うに及ばず、最近はCTやPETなどの断層写真による診断も使われています。これらの歯科放射線学の技術を安全にまた正しく使う上でやはり原子と原子核の構造や電子と電磁波について思い出すことが必要になります。陽子、中性子、電子、さらには陽電子などの物質の基本的な構成粒子について理解を深め、歯科への応用を知るようにします。

2. 一般目標

物理学の基礎的な内容の歯科医学への応用を理解する。

3. 到達目標

- 1) クーロンの法則で表される原子核と電子の静電気力の効果を理解する。
- 2) 電磁波の発生と物質との相互作用を説明する。
- 3) 物質の弾性を分子・原子間力で説明する。
- 4) 陽子、中性子、電子という基本粒子の存在を説明し、放射線との相互作用を理解する。

4. 履修の進め方

板書を中心に授業をします。ノートをしっかり取る習慣をつけましょう。

5. 準備学修

教科書の授業内容のところをよく読んでくる。(30分)
講義で行った内容の復習を行う。(30分)

6. 評価方法

定期試験により評価する。

7. 教本

シップマン自然科学入門 新物理学（学術図書出版）

8. 参考書

なし

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4 / 7	ガイダンス	科目の内容を歯科との関係で説明する。	国：必須-17-イ	①
2	4 / 7	物性物理学	応力と歪み，弾性率		〃
3	4 / 14		クーロンの法則	国：必須-17-イ	〃
4	4 / 14		原子核と電子	国：必須-17-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	4 / 20 (月)		原子の構造	国： 必須-17-イ	①
6	4 / 20 (月)	弾性	クーロン力と 弾性率	国： 必須-17-イ	〃
7	4 / 21		物質の三つの 相	国： 必須-17-イ	〃
8	4 / 21		三種類の応力	国： 必須-17-イ	〃
9	4 / 28		支持力、保持 力、把持力	国： 必須-17-イ	〃
10	4 / 28		応力・歪み曲 線	国： 必須-17-イ	〃
11	5 / 12	熱	熱伝導と熱膨 張	国： 必須-17-イ	〃
12	5 / 12		問題演習	国： 必須-17-イ	〃
13	5 / 19		問題演習	国： 必須-17-イ	〃
14	5 / 19		まとめ	国： 必須-17-イ	〃
15	5 / 26	放射能と放射 線	原子核の構成	国： 必須-17-イ	〃
16	5 / 26		放射性崩壊	国： 必須-17-イ	〃
17	6 / 9		放射能の強さ、 半減期	国： 必須-17-イ	〃
18	6 / 9		問題演習	国： 必須-17-イ	〃
19	6 / 16		X線管	国： 必須-17-イ	〃
20	6 / 16		X線の吸収、 散乱	国： 必須-17-イ	〃
21	6 / 22 (月)		核分裂、人工 放射性物質	国： 必須-17-イ	〃
22	6 / 22 (月)		電子、陽電子	国： 必須-17-イ	〃
23	6 / 23		断層写真診断 法	国： 必須-17-イ	〃
24	6 / 23		断層写真診断 法	国： 必須-17-イ	〃
25	6 / 30		問題演習	国： 必須-17-イ	〃
26	6 / 30		放射線被曝	国： 必須-17-イ	〃
27	7 / 7		放射線被曝	国： 必須-17-イ	〃
28	7 / 7		問題演習	国： 必須-17-イ	〃
29	7 / 14		問題演習	国： 必須-17-イ	〃
30	7 / 14		まとめ	国： 必須-17-イ	〃

化 学（前期・2単位）

D③-1202

科目責任者：阿部 匡聡（化学・講師）

科目担当者：①阿部 匡聡（化学）

1. 科目の概要

生体内で働く物質や、私たちの身近にある物質（燃料、塗料、プラスチック製品、衣類、食品、医薬品など）には、多くの有機化合物が存在している。さらに、歯科医学で用いられる、抗炎症薬・鎮痛薬・抗菌薬・麻酔薬などの薬物の大部分は有機化合物であり、印象剤や歯冠用硬質レジンなどの歯科材料にも有機高分子化合物が利用されている。代謝過程での種々の生体反応も、基本的な有機化合物の反応と根本的な機構は同じであり、有機化学の知識・概念は、生命現象の分子機構的理解、歯科医学関連薬物・材料の構造・性質の理解に不可欠である。本科目では、基本的な有機化合物の構造・性質・合成・反応について解説する。本科目の履修を通じ、生命現象や、物質の変化を、分子機構的に探究する志向性を抱いてほしい。

2. 一般目標

学修者は、ディプロマポリシー（1）探求力と解決力のため、基本的な有機化合物の構造・性質・反応についての知識・概念を習得する。

3. 到達目標

- 1）学修者は、官能基の種類により化合物を分類し、各化合物の性質・反応を説明できる。
- 2）学修者は、異性体について説明し、構造式で示すことができる。
- 3）学修者は、置換反応、付加反応、脱離反応、酸化還元反応、ラジカル反応を説明し、反応式を記述できる。
- 4）学修者は、芳香族化合物の性質・反応について、脂肪族化合物との違いを示し、説明できる。

4. 履修の進め方

教科書の内容編成に沿い、主に板書により講義する。ミニマムリクワイアメントを口頭試問で確認しながら進める。レポートにより、形成的評価を行う。適宜、プリントを用いた問題演習を導入する。

5. 準備学修

1年次で履修する基礎化学の内容を修得しておくことが望ましい。本科目の内容は、歯科基礎医学、歯科基礎病態治療学区分に関連し、特に、口腔生化学Ⅰ、Ⅱ、歯科薬理学Ⅰ、Ⅱ、生体材料・歯科材料学Ⅰ、Ⅱの履修に役立つ。

事前学習（10分）：教科書の当該箇所を読んでおく。

事後学習（30分）：教科書やノートを読み返し、学習内容の理解を深め、知識・概念を覚えるよう努める。内容を理解し覚える上で、構造式や反応式を書いてみるのが特に有効である。

6. 評価方法

中間試験（45%）と定期試験（55%）で評価し、65点以上で合格とする。

7. 教本

伊奥田正彦 他 著 「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店 2013年

8. 参考書

中川徹夫 著 「化学の基礎 ―元素記号からおさらいする化学の基本―」 化学同人 2010年

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/8	原子の構造と電子配置	原子の構造; 電子配置; 価電子	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	①
2	4/8	共有結合と分子の形成	共有結合; 混成軌道	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
3	4/15	有機分子の形と構造異性体	構造式; 官能基; 構造異性体	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
4	4/15	立体異性体	不斉炭素と光学異性体; アミノ酸・糖の構造; cis-trans 異性体	C-1-1), C-2-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
5	4/22	分子の中の電子の偏りと非局在化1	結合の分極; 結合の開裂と電子の流れ	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
6	4/22	分子の中の電子の偏りと非局在化2	形式電荷; 誘起効果と共鳴効果; 共鳴安定化と芳香族性	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
7	4/27(月)	分子間力	ファンデルワールス力; 双極子-双極子相互作用; 水素結合	C-1-1), C-2-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
8	4/27(月)	アルカン	アルカンの構造・性質・反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
9	5/13	アルケンとアルキン1	アルケンとアルキンの構造・性質; アルケンの合成	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
10	5/13	アルケンとアルキン2	アルケンの反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
11	5/20	アルケンとアルキン3	アルキンの合成・反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
12	5/20	ハロゲン化アルキル1	ハロゲン化アルキルの構造・性質・合成	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
13	5/27	ハロゲン化アルキル2	ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
14	5/27	アルコールとエーテル1	アルコールの構造・性質・合成	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
15	6/3	アルコールとエーテル2	アルコールの反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
16	6/3	アルコールとエーテル3	エーテルの構造・性質・合成・反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
17	6/8(月)	ベンゼンと芳香族炭化水素1	ベンゼンの構造; アルケンとベンゼンの反応性の違い	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	①
18	6/8(月)	ベンゼンと芳香族炭化水素2	芳香族化合物とヒュッケル則; 芳香族求電子置換反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
19	6/10	ベンゼンと芳香族炭化水素3	求電子置換反応における配向効果と活性化効果	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
20	6/10	置換ベンゼン類の合成と反応1	フェノールの性質・合成; フェノール類, ハロゲン化アリールの反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
21	6/17	置換ベンゼン類の合成と反応2	アニリンの反応; ジアゾニウム塩の合成と反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
22	6/17	カルボニル化合物1	カルボニル化合物の構造・性質・合成	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
23	6/24	カルボニル化合物2	カルボニル化合物の求核付加反応, 酸化, 還元	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
24	6/24	カルボニル化合物3	エノールおよびエノラートイオンの反応; アルドール縮合	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
25	7/1	カルボン酸	カルボン酸の構造・性質・合成; 弱酸の解離定数; 酸塩基平衡	C-1-1), C-2-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
26	7/1	カルボン酸誘導体1	エステル, カルボン酸塩化物の合成・反応	C-1-1), C-2-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
27	7/8	カルボン酸誘導体2	カルボン酸無水物, アミド, ニトリルの合成・反応	C-1-1), C-2-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
28	7/8	アミン1	アミンの構造・性質・合成; 局所麻酔薬とアミン	C-1-1), E-1-4)-(3) / 必5-ア, 必13-イ, 総VII-4-ウ	〃
29	7/15	アミン2	アミンの反応	C-1-1) / 必5-ア, 必13-イ	〃
30	7/15	高分子	高分子化合物の分類; 歯科材料と高分子; 重合反応	D-1 / 総VIII-1	〃

生物学（前期・2単位）

D③-1203

科目責任者：前田 豊信（生化・准教授）

科目担当者：①前田 豊信（生化）

1. 科目の概要

本科目では、歯科医師として必要な生命現象を理解するために、必要な分子生物学の知識を中心に講義を行う。具体的には、細胞生物学と細胞間情報伝達について講義する。各臓器の機能について、分子生物学的観点から講義する。さらに遺伝子工学の現状を解説し、生命倫理について考察する。

2. 一般目標

歯科口腔疾患の病態を解析し、治療の要素を把握するために必要な、基礎系科目の知識を理解・習得するために、必要な生物学の知識を身につける。

3. 到達目標

- 1) 細胞の構造と機能について説明できる。
- 2) 生体を構成する基本分子とその代謝について説明できる。
- 3) 細胞間情報伝達について説明できる。
- 4) 中心命題とその制御について説明できる。
- 5) 血液の成分と機能について説明できる。
- 6) 肝臓、胆嚢、膵臓の機能について説明できる。
- 7) 腎臓の機能について説明できる。
- 8) 骨の役割について説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に配布資料を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておくこと（10分）。

6. 評価方法

定期試験で評価し、65点以上で合格とする。

7. 教本

なし。

8. 参考書

基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版 和田 勝 著（羊土社）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／13	細胞の構造と小器官の機能①	小器官の機能	C-2-3)／必5-ア	①
2	4／13	細胞の構造と小器官の機能②	細胞骨格	C-2-3)／必5-ア	〃
3	4／14 (火)	細胞の構造と小器官の機能③	形質膜と膜輸送	C-2-3)／必5-ア	〃
4	4／16 (木)	人体を構成する成分①	糖	C-2-1)／必5-ア	〃
5	4／20	人体を構成する成分②	タンパク質	C-2-1)／必5-ア	〃
6	4／20	人体を構成する成分③	脂質	C-2-1)／必5-ア	〃
7	4／27	人体を構成する成分④	ミネラル	C-2-1)／必5-ア	〃
8	4／27	栄養素の消化と吸収①	栄養素の消化	C-2-1)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	5／11	栄養素の消化と吸収②	栄養素の吸収と輸送	C-2-1)／必5-ア	①
10	5／11	栄養素の代謝①	糖代謝	C-2-1)／必5-ア	〃
11	5／18	栄養素の代謝②	脂質代謝とアミノ酸代謝	C-2-1)／必5-ア	〃
12	5／18	生体恒常性	ホメオスタシス	C-3-4)／必5-ア	〃
13	5／25	細胞間情報伝達①	内分泌	C-3-4)／必5-ア	〃
14	5／25	細胞間情報伝達②	傍分泌	C-3-4)／必5-ア	〃
15	6／1	細胞間情報伝達③	細胞内シグナル伝達	C-3-4)／必5-ア	〃
16	6／1	細胞間情報伝達④	エイコサノイド	C-3-4)／必5-ア	〃
17	6／8	細胞分裂と細胞死	細胞の一生	C-3-3)／必6-エ	〃
18	6／8	遺伝子と疾患	先天的な遺伝子疾患	C-2-2)／必7-ア	〃
19	6／15	中心命題①	転写とノンコーディングRNA	C-2-2)／必5-ア	〃
20	6／15	中心命題②	翻訳・翻訳後修飾とシャペロン	C-2-2)／必5-ア	〃
21	6／22	中心命題③	転写調節因子、エピジェネティックス	C-2-2)／必5-ア	〃
22	6／22	遺伝子工学	遺伝子工学と生命倫理	C-2-2)／必5-ア	〃
23	6／29	臓器の機能①	血液の成分と機能	C-3-4)／必5-ア	〃
24	6／29	臓器の機能②	心臓のエネルギー代謝	C-3-4)／必5-ア	〃
25	7／6	臓器の機能③	肝臓、胆嚢の機能	C-3-4)／必5-ア	〃
26	7／6	臓器の機能④	〃	C-3-4)／必5-ア	〃
27	7／13	臓器の機能⑤	膵臓の機能	C-3-4)／必5-ア	〃
28	7／13	臓器の機能⑥	腎臓の機能	C-3-4)／必5-ア	〃
29	7／20	臓器の機能⑦	〃	C-3-4)／必5-ア	〃
30	7／20	臓器の機能⑧	骨の機能	C-3-4)／必5-ア	〃

基礎歯学概論Ⅱ（前期・2単位）

D②-0901

科目責任者：遊佐 淳子（病理・講師）

科目担当者：①遊佐 淳子（病理）、②廣瀬 公治（衛生）、
③小林美智代（衛生）、④花岡 洋一（法歯）、
⑤伊東 博司（病理）、⑥櫻井 裕子（病理）、
⑦鈴木 厚子（生化）、⑧前田 豊信（生化）、
⑨加藤 靖正（生化）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医師として身につけなければならない知識を習得する上で、専門基礎科目は特に重要となる。その中で、2年時の後期から3年時の履修科目となる専門基礎科目を中心に、履修前に予備知識として知っておくべき概論や要点について早期に学習する。

2. 一般目標

ディプロマ・ポリシー（3）の病態を解析するための基礎となる第2学年時の後期から第3学年時の履修科目である専門基礎科目を中心に、その知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 生体を構成する成分と機能を説明できる。
- 2) 炎症について理解する。
- 3) 健康の保持・増進の方策を説明できる。
- 4) 社会保障の概要を理解する。
- 5) 地域保健における歯科医師の役割を説明できる。
- 6) 口腔疾患の予防を説明できる。
- 7) 法医学、法歯学を通じた歯科医師の社会的役割を説明できる。

4. 履修の進め方

講義主体でスライド、プリント、板書で適宜進める。ノートを取り、プリントに追記する。

5. 準備学修

講義担当者から配布される資料や、図書館の資料を用いる。
新聞やTVニュースなどから保健・医療・福祉に関する社会の流れを把握すること（事前学習15分）。加えて、講義受講後に、その内容を復習すること（事後学習30分）。

6. 評価方法

定期試験（100%）で評価し、65点以上を合格とする。定期試験のフィードバックは、答案を開示して適宜行う。

7. 教本

講義担当者から配布される資料を用いる。口腔衛生学概論ではスタンダード衛生・公衆衛生、口腔生化学概論ではスタンダード生化学口腔生化学を持参のこと。

8. 参考書

坪井貴司 著「そうだったのか！ヒトの生物学」 丸善出版 2019年

田村浩一 著「図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ」 秀和システム 2011年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	口腔衛生学概論①	公衆衛生学序論社会変化と健康	B-1／必2-ア	②
2	4／10	口腔衛生学概論②	疾病構造と健康問題 国際保健協力	B-1／必4-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
3	4／17	口腔衛生学概論③	健康の保持増進－1 健康日本21（第二次）	B-1／必4-ア	②
4	4／17	口腔衛生学概論④	健康の保持増進－2 感染症と生活習慣病	B-1／必4-ア	〃
5	4／24	口腔衛生学概論⑤	齲蝕の発症	B-3-2)／必4-ウ、エ	③
6	4／24	口腔衛生学概論⑥	齲蝕の予防1 フッ化物	B-3-1)／必4-ウ、エ	〃
7	5／8	口腔衛生学概論⑦	齲蝕の予防2 フッ化物の応用	B-3／必4-ウ	〃
8	5／8	口腔衛生学概論⑧	齲蝕の予防3 歯磨剤	B-3／必4-ウ	〃
9	5／15	口腔衛生学概論⑨	環境と健康－1	B-2-4)／総論Ⅰ-9	②
10	5／15	口腔衛生学概論⑩	環境と健康－2	B-2-4)／総論Ⅰ-9	〃
11	5／22	口腔衛生学概論⑪	疫学 統計学の基礎－1	B-4-1,2)／総Ⅰ-6-ア	③
12	5／22	口腔衛生学概論⑫	疫学 統計学の基礎－2	B-4-1,2)／総Ⅰ-6-ア	〃
13	5／29	口腔衛生学概論⑬	歯科医学と社会－1 公衆衛生と法	B-2-1)／必2-イ	②
14	5／29	口腔衛生学概論⑭	歯科医学と社会－2 社会保障の概要	B-2-2)／必2-イ	〃
15	6／1（月）	法歯学概論①	法歯学とは1（社会における歯科医の役割）	B-2-3)／総Ⅰ3-ア	④
16	6／1（月）	法歯学概論②	法歯学とは2（歯科的個人識別）	B-2-3)／総Ⅰ3-ア	〃
17	6／5	口腔病理学概論①	炎症1	C-5-5)／総Ⅲ-1-オ	⑤
18	6／5	口腔病理学概論②	炎症2	C-5-5)／総Ⅲ-1-オ	〃
19	6／12	口腔病理学概論③	齲蝕1	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	①
20	6／12	口腔病理学概論④	齲蝕2	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	〃
21	6／19	口腔病理学概論⑤	歯周病1	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	⑥
22	6／19	口腔病理学概論⑥	歯周病2	E-3-2)／総Ⅲ-2-ア	〃
23	6／26	口腔生化学概論①	アミノ酸基本構造・アミノ酸残基の修飾、アミノ酸代謝	C-2／必5-ア	⑦
24	6／26	口腔生化学概論②	タンパク質の基本構造・フォールディング、翻訳	C-2／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	7 / 3	口腔生化学概論③	ビタミンの種類, 機能, 欠乏症	C-2/必5-ア	⑧
26	7 / 3	口腔生化学概論④	補酵素とその役割	C-2/必5-ア	〃
27	7 / 10	口腔生化学概論⑤	酵素反応速度論Ⅰ: ミカエリスメンテンの式	C-2/必5-ア	⑨
28	7 / 10	口腔生化学概論⑥	酵素反応速度論Ⅱ: アロステリック酵素, 酵素反応阻害様式	C-2/必5-ア	〃
29	7 / 17	口腔生化学概論⑦	糖質の種類と構造	C-2/必5-ア	〃
30	〃	口腔生化学概論⑧	脂質の種類と構造	C-2/必5-ア	〃

臨床心理学Ⅱ（前期・1単位）

D①②③-1101

科目責任者: 鈴木 敏城 (心理・講師)

科目担当者: ①鈴木 敏城 (心理)

※この科目は、他大学の心理・発達教育相談室で心理臨床の経験を持つ公認心理師・臨床心理士である教員が担当する

1. 科目の概要

臨床心理学とは、様々な心の障害を乗り越えようとする人間を心理学的に支援する学問である。人間存在が持つ様々な悩み、悩みに陥る心の構造とプロセス、支援の方法を学んでいく。「臨床心理学Ⅱ」では、1年次に「臨床心理学Ⅰ」で学んだ主な精神疾患の理解を基に、臨床心理学と社会病理、リエゾン精神医学、脳科学、精神腫瘍学、死生学、臨床哲学等との関連を学んでいく。

2. 一般目標

臨床心理学の応用を学び、人間の悩みの背景を知ること、人間が人間を心理的に支援することの意味と患者の立場や背景を理解する(ディプロマ・ポリシー「1」に該当する)。

臨床心理学と関連分野の連携を学ぶことで、医療者として患者に思いやりを持った言動に心がけると共に、人間存在としての患者を尊重することの重要性を理解する(ディプロマ・ポリシー「1」に該当する)。

臨床心理学の知識を生かし、自己のパーソナリティ特性を理解する。

3. 到達目標

- 1) 臨床心理学と社会病理との関連について説明できる。
- 2) 臨床心理学と脳科学との関連について説明できる。
- 3) 臨床心理学と精神腫瘍学との関連について説明できる。
- 4) 臨床心理学と死生学との関連について説明できる。
- 5) 臨床心理学と臨床哲学との関連について説明できる。
- 6) 臨床心理学とターミナルケア、緩和医療との関連について説明できる。
- 7) 臨床心理学とリエゾン精神医学との関連について説明できる。

4. 履修の進め方

授業は講義形式で行われるが、必要に応じて学生同士の対話や学生と教師との対話等のアクティヴ・ラーニングを取り入れていく。アクティヴ・ラーニングを重視したプロセスで授業を行うことによって、授業の双方向性も重視する。

5. 準備学修

予習: 次時のテーマについて、歯科医療の場面で自分であれば、どのように対応するかを具体的に考えておく。

復習: 授業中の思考、対話、発表、講義の内容を自分の問題としてまとめておく。

6. 評価方法

定期試験(100%)で評価し、100点満点で65点以上の者を合格とする。

7. 教本

なし。毎回プリントを配付する。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4 / 6	臨床心理学と社会病理①	集団の中の社会病理について考える。	B-2-4, E-5, 6/総Ⅳ2キ, VII1エg	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	4／13	臨床心理学と社会病理②	いじめの社会病理について考える。	B-2-4, E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	①
3	4／20	臨床心理学と身体疾患	疾病及び障害の受容について考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	〃
4	4／27	臨床心理学とリエゾン精神医学	身体疾患への心理臨床とコンサルテーションについて考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	〃
5	5／11	臨床心理学と脳科学①	脳の発達と構造について考える。	E-5, 6／総II1キ, IV2キ, VII1エg	〃
6	5／18	臨床心理学と脳科学②	脳と心の関係、心は脳の機能であることについて考える。	E-5, 6／総II1キ, IV2キ, VII1エg	〃
7	5／25	臨床心理学と脳科学③	脳と精神疾患との関係について考える。	E-5, 6／総II1キ, IV2キ, VII1エg	〃
8	6／1	臨床心理学と精神腫瘍学①	がん患者の心理的不安やスピリチュアル・ペインについて考える。	A-1-1, E-5, 6／総IV2キ, V6ア, VII1エg	〃
9	6／1	臨床心理学と精神腫瘍学②	がん患者への心理臨床について考える。	A-1-1, E-5, 6／総IV2キ, V6ア, VII1エg	〃
10	6／8	臨床心理学と死生学①	人間にとっての死の恐怖について考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	〃
11	6／15	臨床心理学と死生学②	人間にとっての死の受容について考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	〃
12	6／22	臨床心理学とターミナルケア	緩和医療と心理臨床の関係について考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg, 5アイウ	〃
13	6／29	臨床心理学と尊厳死	尊厳死と心理臨床の関係について考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg, 5アイウ	〃
14	7／6	臨床心理学と哲学	臨床哲学について考える。	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	〃
15	7／13	まとめ	全体の振り返り、ポイントの整理	E-5, 6／総IV2キ, VII1エg	〃

歯科医療人間学Ⅱ（前期・2単位）

D①－0102

科目責任者：竜 立雄（矯正・講師）

科目担当者：①竜 立雄（矯正）、②大橋 明石（衛生）、
③南 健太郎（衛生）、④吉田いくよ（非常勤）、
⑤鈴木 俊子（非常勤）、⑥本多 真史（日本語）

※この科目は、診療経験のある歯科医師及び一般企業勤務経験のある教員が担当する。

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェッショナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1）医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2）患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3）平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4）医療現場で必要な言葉でコミュニケーションする。

4. 履修の進め方

グループワークおよびペアによるActive Learningを行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

5. 準備学習

予 習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける（30分）。

復 習：プリント学習や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

ビデオ撮影や記述式試験および客観的試験により、平均値を算出し65点以上を合格とする。

7. 教本

なし。

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／7	2－A 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	A-1-2)／ 必-1-ア-a	① ② ③
2	4／7	2－B 歯科医療とホスピタリティ	医療の基本を考える	A-1-2)／ 必-1-ア-a	〃
3	4／14	2－A 医療人とアサーション①	医療コミュニケーションの進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	4／14	2－B 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
5	4／20 (月)	2－A 医療人とア サーション②	医療コミュニケーションの 進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
6	4／20 (月)	2－B 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
7	4／21	2－A 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	〃
8	4／21	2－A 医療人とア サーション①	医療コミュニケーションの 進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
9	4／28	2－A 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
10	4／28	2－B 医療人とア サーション②	医療コミュニケーションの 進行の仕方	A-4-2)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
11	5／12	2－A 表現・自分 自身を知るⅡ－ 1 ①	自分の表現の 仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
12	5／12	2－B 医療面接と傾 聴力①	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
13	5／19	2－A 表現・自分 自身を知るⅡ－ 1 ②	自分の表現の 仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
14	5／19	2－B 医療面接と傾 聴力②	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
15	5／26	2－A 医療面接と傾 聴力①	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	〃
16	5／26	2－B 表現・自分 自身を知るⅡ－ 1 ①	自分の表現の 仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
17	6／9	2－A 医療面接と傾 聴力②	好感度、信頼 度を上げる会 話とは？	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
18	6／9	2－B 表現・自分 自身を知るⅡ－ 1 ②	自分の表現の 仕方基礎	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
19	6／16	2－A 表現・自分 自身を知るⅡ－ 2 ①	自分の表現の 仕方実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	〃
20	6／16	2－B 医療面接の実 践トレーニング ①	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プワーク＞	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
21	6／22 (月)	2－A 表現・自分 自身を知るⅡ－ 2 ②	自分の表現の 仕方 実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
22	6／22 (月)	2－B 医療面接の実 践トレーニング ②	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プワーク＞	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
23	6／23	2－A 医療面接の実 践トレーニング ①	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プワーク＞	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	〃
24	6／23	2－B 表現・自分 自身を知るⅡ－ 2 ①	自分の表現の 仕方 実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
25	6／30	2－A 医療面接の実 践トレーニング ②	話す・傾聴・ 状況判断・ク レーム処理 ＜グルー プワーク＞	F-2-1)／ 必-9-ウ-b	⑥ ③
26	6／30	2－B 表現・自分 自身を知るⅡ－ 2 ②	自分の表現の 仕方 実践	A-4-1)／ 必-9-ウ-b	④ ⑤ ① ②
27	7／7	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	① ⑥
28	7／7	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	〃
29	7／14	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	〃
30	7／14	形成的評価	形成的評価試 験を行う。	関連範囲	〃

口腔解剖学（通年・3単位）

D③-1302

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、
③田原 充（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床歯科医学を学修するのに先立ち、歯および口腔領域の正常な形態と構造について講義で学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な歯や口腔周囲の構造についての「知識」を身に付けるために、ヒトの歯および口腔領域の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

- 1) 永久歯、乳歯の形態を説明できる。
- 2) 歯列・咬合について説明できる。
- 3) 口腔領域の筋・神経・脈管について説明できる。
- 4) 口腔内臓について説明できる。
- 5) 顎関節の構造と機能について説明できる。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回講義内容を小テストによる形成的評価を行いながら講義を進めていく。また、各項目ごとの形成的評価を行う。これにより学修するすべての項目についての理解を確実なものとして、項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに、形成的評価のために前回講義内容を復習しておく。事前配布プリントを読むこと（15分）、形成的評価のための事後学習（30分）。

6. 評価方法

定期試験で評価し、65点以上を合格とする。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

なし。講義資料はプリントを事前に配布する。

8. 参考書

高橋和人 他 著「図説 歯の解剖学」第2版 医歯薬出版
近藤信太郎ら 編 著「歯の解剖学」第1版 わかば出版
松村譲児ら 編 著「イラスト顎顔面解剖学」中外医学社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4／9	口腔解剖学総論1	口腔解剖学とは	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	①
2	4／9	口腔解剖学総論2	歯の種類、歯列、歯式と方向用語	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
3	4／16	永久歯の形態①	切歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
4	4／16	永久歯の形態②	切歯のスケッチ、スケッチ方法論	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
5	4／23	永久歯の形態③	犬歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
6	4／23	永久歯の形態④	犬歯のスケッチ、歯の彫刻の実際	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
7	5／7	永久歯の形態⑤	上顎小臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	5／7	永久歯の形態⑥	下顎小臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	①
9	5／11 (月)	永久歯の形態⑦	上顎第一大臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
10	5／11 (月)	永久歯の形態⑧	上顎第二大臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
11	5／14	永久歯の形態⑨	下顎第一大臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
12	5／14	永久歯の形態⑩	下顎第二大臼歯の形態	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
13	5／21	永久歯の形態⑪	永久歯のまとめ	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
14	5／21	永久歯の形態⑫	歯牙スケッチまとめ	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
15	5／28	乳歯の形態①	乳歯総論	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	②
16	5／28	慰霊式説明	慰霊式説明、死体解剖保存法	A-1-1)／ 必1-ア	①
17	6／4	乳歯の形態②	乳歯の形態1	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	②
18	6／4	乳歯の形態③	乳歯の形態2、歯齡	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
19	6／11	歯の形態異常	歯の形態異常	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
20	6／11	歯列、咬合	歯列、咬合	E-2-2)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
21	6／18	乳歯の形態④	乳歯のまとめ	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	②
22	6／18	臨床（特別講義）	臨床からみた口腔解剖	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	③
23	6／25	神経学①	神経学総論	C-3-4)／ 必5-ア	②
24	6／25	神経学②	中枢神経1・総論	C-3-4)／ 必5-ア	〃
25	7／2	神経学③	中枢神経2・大脳	C-3-4)／ 必5-ア	〃
26	7／2	口腔の解剖①	口腔内臓総論	E-2-2)／ 総Ⅱ-4-ア	①
27	7／9	神経学④	中枢神経3・脳幹、小脳	C-3-4)／ 必5-ア	②
28	7／9	口腔の解剖②	口蓋、口峽	E-2-2)／ 総Ⅱ-4-オ	①
29	7／16	神経学⑤	中枢神経4・脊髄	C-3-4)／ 必5-ア	②
30	7／16	口腔の解剖③	咽頭・唾液腺	E-2-2)／ 総Ⅱ-4-オ	①
31	8／31	神経学⑥	末梢神経1・脳神経総論	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃
32	9／7	神経学⑦	末梢神経2・脳神経Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵ、Ⅶ	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-キ	〃
33	9／14	神経学⑧	末梢神経3・脳神経Ⅶ	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃
34	9／28	神経学⑨	末梢神経4・脳神経Ⅶ、Ⅻ	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃
35	10／5	神経学⑩	末梢神経5・脳神経Ⅴ	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
36	10/12	神経学⑪	末梢神経 6・脳神経 V	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	①
37	10/19	神経学⑫	末梢神経 7・脳神経Ⅸ, X, XI	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃
38	10/26	神経学⑬	末梢神経・自律神経	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-キ	〃
39	11/2	神経学⑭	末梢神経・脊髄神経	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃
40	11/9	頭頸部の筋①	表情筋と咀嚼筋	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-ウ	〃
41	11/16	頭頸部の筋②	舌筋, 舌骨上筋, 舌骨下筋	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-ウ	〃
42	11/30	神経学⑮	末梢神経まとめ	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-カ	〃
43	12/7	嚥下	嚥下関連の解剖学	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-オ	〃
44	12/14	筋膜隙	臨床関連の解剖学	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-キ	〃
45	12/21	顎関節	顎関節の機能と構造	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	②

口腔解剖学実習（前期・1単位）

D②③-1402

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、③田原 充（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

前半の7回で歯の形態をスケッチおよび彫刻実習により理解する。後半の8回で骨の形態と構造を骨標本を用いた実習により理解する。

2. 一般目標

歯の形態と全身の骨の構造を理解することにより歯科医師として必要な歯と骨に関連した「知識」を身に付ける。

3. 到達目標

- 1) 歯の形態を2次元的にスケッチできる。
- 2) 歯の形態を3次元的に彫刻できる。
- 3) 頭蓋骨や全身の骨の形態および構造を説明できる。

4. 履修の進め方

永久歯の3倍大のスケッチと彫刻の実習を行う。骨学実習ではテキストの内容を骨標本で確認する。

5. 準備学修

歯の彫刻実習には歯種に応じた大きさの石膏棒を用意するとともに歯の形態を確認しておく（15分）。

骨学実習では「口腔顎顔面ノート」の該当部分を確認しておく（30分）。

実習後に歯のスケッチ又は「口腔顎顔面ノート」を確認しておく（15分）。

6. 評価方法

各回の提出物の評価（80%）、態度評価（20%）で評価する。評価基準については実習の第1回目で説明する。フィードバックは提出物返却時に適宜行う。

7. 教本

井出吉信 監修「口腔顎顔面解剖ノート」第3版 学建書院

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3 4	4/9	口腔解剖学実習①	評価基準の説明, Wax棒彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	① ②
5 6 7 8	4/16	口腔解剖学実習②	切歯のスケッチ, 彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
9 10 11 12	4/23	口腔解剖学実習③	犬歯のスケッチ, 彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
13 14 15 16	5/7	口腔解剖学実習④	小臼歯のスケッチ, 彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
17 18 19 20	5/14	口腔解剖学実習⑤	上顎大臼歯のスケッチ, 彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
21 22 23 24	5/18 (月)	口腔解剖学実習⑥	下顎大臼歯のスケッチ、彫刻	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	① ②
25 26 27 28	5/21	口腔解剖学実習⑦	歯の彫刻まとめ	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	〃
29 30 31 32	5/28	骨学実習①	骨の貸出と確認	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
33 34 35 36	6/4	骨学実習②	頭蓋冠、頭蓋底	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
37 38 39 40	6/11	骨学実習③	蝶形骨、側頭骨、眼窩	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
41 42 43 44	6/18	骨学実習④	上顎骨、口蓋骨、鼻腔	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	① ② ③
45 46 47 48	6/25	骨学実習⑤	下顎骨、舌骨	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	① ②
49 50 51 52	7/2	骨学実習⑥	体幹と四肢の骨	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
53 54 55 56	7/9	骨学実習⑦	頭蓋底の孔・管と翼口蓋窩	C-3-4), E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
57 58 59 60	7/16	骨学実習⑧	骨学実習まとめ	C-3-4), E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃

解剖学（通年・3単位）

D③－1301

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、
③佐藤 功二（非常勤）、④阿部 伸一（非常勤）、
⑤井出 吉昭（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

歯科医学を学修するのに先立ち、肉眼解剖による人体の正常構造を講義により学ぶ。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な肉眼解剖学の「知識」を身に付けるために、人体の正常な形態と構造について理解する。

3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明できる。
- 2) 身体を構成する器官系について説明できる。
- 3) 人体の骨、脈管、筋、内臓、神経の形態と構造を説明できる。
- 4) 鰓弓および顎顔面の発生を説明できる。

4. 履修の進め方

プリントを用いた講義を行う。前回の講義内容を形成的評価を行いながら講義を進めていく。また、各項目終了時にも形成的評価を行う。これによりすべての項目についての理解を確実なものとして、項目間の関連について理解できることを目標とする。

5. 準備学修

講義プリントを事前に確認しておくとともに、形成的評価のために前回講義内容を復習しておく。事前配布プリントを読むこと（15分）、形成的評価のための事後学習（30分）。

6. 評価方法

定期試験で評価し、65点以上を合格とする。フィードバックは解答を開示して適宜行う。

7. 教本

なし。
講義資料はプリントを事前に配布する。

8. 参考書

脇田稔ら 監修「口腔解剖学」第2版 医歯薬出版 2018年
藤田恒太郎 著「入門人体解剖学」第4版 南江堂 2009年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/7	解剖学総論	解剖学とは、方向用語	C-3-1)／総Ⅲ-2-ア～ク	①
2	4/13 (月)	骨学①	骨学総論	C-3-4)／総Ⅳ-1-ア、オ	〃
3	4/14	骨学②	頭蓋冠・外頭蓋底	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
4	4/21	骨学③	内頭蓋底	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
5	4/28	骨学④	蝶形骨1	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
6	5/12	骨学⑤	蝶形骨2	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
7	5/19	骨学⑥	側頭骨	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
8	5/26	骨学⑦	上顎骨	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
9	6／9	骨学⑧	下顎骨	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-イ	①
10	6／15 (月)	骨学⑨	体幹の骨	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-イ	〃
11	6／16	骨学⑩	体肢の骨	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-イ	〃
12	6／23	骨学⑪	骨学のまとめ	C-3-4)／ 総Ⅱ-4-イ	〃
13	6／30	脈管学①	脈管学総論	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-ウ	②
14	7／7	脈管学②	動脈	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-エ	〃
15	7／14	脈管学③	静脈，リンパ	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-エ	〃
16	9／3	内臓学①	筋学 1	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-イ	①
17	9／3	局所解剖学 1	人体解剖学実 習 1 のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃
18	9／10	内臓学②	筋学 2	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-イ	〃
19	9／10	局所解剖学 2	人体解剖学実 習 2 のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃
20	9／17	内臓学③	消化器 1	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-エ	〃
21	9／17	局所解剖学 3	人体解剖学実 習 3 のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃
22	9／24	内臓学④	消化器 2	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-エ	〃
23	9／24	局所解剖学 4	人体解剖学実 習 4 のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃
24	10／1	内臓学⑤	呼吸器	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-ウ	〃
25	10／1	局所解剖学 5	人体解剖学実 習 5 のための 解説	C-3-4)／ 総論Ⅲ-2-ア， ウ，エ，キ	〃
26	10／8	内臓学⑥	感覚器 1	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-キ	〃
27	10／8	局所解剖学 6	人体解剖学実 習 6 のための 解説	C-3-4)／ 総論Ⅲ-2-ア， エ，キ	〃
28	10／15	内臓学⑦	感覚器 2	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-キ	〃
29	10／15	局所解剖学 7	人体解剖学実 習 7 のための 解説	C-3-4)／ 総Ⅲ-2-ア， イ，エ，キ	〃
30	10／22	内臓学⑧	泌尿生殖器	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-カ	〃
31	10／22	局所解剖学 8	人体解剖学実 習 8 のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃
32	10／29	内臓学⑨	内分泌器	C-3-4)／ 総Ⅱ-1-ク	〃
33	10／29	局所解剖学 9	人体解剖学実 習 9 のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
34	11／5	内臓学⑩	内臓学のま とめ	C-3-4)／総 Ⅱ-1-ア～ク	①
35	11／5	局所解剖学10	人体解剖学実 習10のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	〃
36	11／12	発生①	鰓弓	C-3-2)／ 総Ⅱ-9-ア	②
37	11／12	局所解剖学11	人体解剖学実 習11のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	①
38	11／19	発生②	顎顔面の発生	C-3-2)／ 総Ⅱ-9-ア	②
39	11／19	局所解剖学12	人体解剖学実 習12のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	①
40	11／26	臨床解剖①	咀嚼嚥下の機 能解剖	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-キ	④
41	11／26	局所解剖学13	人体解剖学実 習13のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	④
42	12／3	発生③	舌	C-3-2)／ 総Ⅱ-9-ア	③
43	12／3	局所解剖学14	人体解剖学実 習14のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	①
44	12／10	臨床解剖②	頭頸部の臨床 解剖	E-2-1)／ 総Ⅱ-4-キ	⑤
45	12／10	局所解剖学15	人体解剖学実 習15のための 解説	C-3-4)／ 必5-ア	①

解剖学実習（後期・1単位）

D②③-1401

科目責任者：宇佐美晶信（解剖・教授）

科目担当者：①宇佐美晶信（解剖）、②芹川 雅光（解剖）、
③佐藤 功二（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

人体を用いた肉眼解剖学の実習を行う。この実習は「死体解剖保存法」に則って行われる。人体の構造についての知識を深めるだけでなく、医の倫理を考え、死者に対する尊厳を学ぶ場でもある。

2. 一般目標

歯科医学を学修していくために必要な解剖学の「知識」を関連付けて理解するだけでなく、実習期間中に各班がプレゼンテーションを行うことにより「研究志向と解決力」を涵養する。

3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明できる。
- 2) 身体を構成する器官系について説明できる。
- 3) 人体の骨、脈管、筋、内臓、神経の形態と構造を説明できる。

4. 履修の進め方

特に頭頸部を中心とした人体解剖実習を行う。各回の内容手順は事前にプリントを「授業資料提示システム」にアップロードしておくとともに、実習前に講義により手順の解説を行う。また、班ごとに指定された課題について期間中に1回のプレゼンテーションを行う。

5. 準備学修

事前に教科書、プリントで解剖手順を確認しておくとともに（15分）、総括的評価のために前回実習内容を復習しておく（30分）。実習の第1回目に各班の課題を提示するので発表日までに班ごとにプレゼンテーションの準備を行う。

6. 評価方法

毎回講義前に行う前回内容の小テスト（80%）、プレゼンテーション（10%）と態度評価（10%）の合計が65点以上を合格とする。評価基準については実習の第1回目で説明する。フィードバックは正答を開示する。

7. 教本

寺田春水、藤田恒太郎 著「解剖実習の手引き」南山堂
佐藤達夫 訳「あたらしい人体解剖学アトラス」第1版
MEDSi

8. 参考書

上條雅彦 著「口腔解剖学1～5」 アナトーム社

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1 2 3 4	9／3	人体解剖学実習1	解剖実習オリエンテーション、体表観察、頸部皮神経・皮静脈	C-3-4)／必5-ア	① ②
5 6 7 8	9／10	人体解剖学実習2	頸部浅層・中層の筋・脈管・神経浅胸筋、腹部の筋	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
9 10 11 12	9／17	人体解剖学実習3	頸部深層の筋・脈管・神経、甲状腺、腋窩、大腿伸筋、大腿三角	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
13 14 15 16	9／24	人体解剖学実習4	耳下腺、顔面神経、鎖骨下動静脈、腕神経叢、上肢屈筋	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	① ②
17 18 19 20	10／1	人体解剖学実習5	表情筋、顔面動静脈、肺、開胸	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
21 22 23 24	10／8	人体解剖学実習6	耳下腺神経叢、顔面動静脈、後縦隔、心臓	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
25 26 27 28	10／15	人体解剖学実習7	顔面神経、舌骨上筋、開腹、腹部動脈	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
29 30 31 32	10／22	人体解剖学実習8	後頭筋浅層、背部の浅層・中層の筋	C-3-4)／必5-ア	〃
33 34 35 36	10／29	人体解剖学実習9	後頭下三角、頭部切断、脊髓、殿部深層	C-3-4)／必5-ア	〃
37 38 39 40	11／5	人体解剖学実習10	咽頭、頭部矢状断、腹部内臓	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
41 42 43 44	11／12	人体解剖学実習11	眼窩、舌、鼻腔、…後…腹…壁、横隔膜、腰神経叢	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
45 46 47 48	11／19	人体解剖学実習12	咀嚼筋、顎動脈、骨盤内臓	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
49 50 51 52	11／26	人体解剖学実習13	顎関節、側頭下窩、下顎管、中枢神経	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃
53 54 55 56	12／3	人体解剖学実習14	口蓋、舌下神経管、三叉神経、喉頭、気管	E-2-1)／必5-ア	① ② ③
57 58 59 60	12／10	人体解剖学実習15	三叉神経、副鼻腔、後片付け及び納棺	C-3-4), E-2-1)／必5-ア	〃

口腔組織学 (通年・4単位)

D③-1303

科目責任者：安部 仁晴 (組織・准教授)

科目担当者：①安部 仁晴 (組織)，②中川 敏浩 (組織)，
③山本 仁 (客員)

1. 科目の概要

組織学は、細胞・組織・器官について、正常構造の微細形態を明らかにする学問である。この組織学の一部として、細胞を総合的に分子レベルでとらえる細胞生物学と、受精に始まり、死に至るまでの継続的過程を明らかにする発生学がある。この二つの分野を包括的に捉えて組織学講義を行う。口腔組織学の理解なくして口腔諸器官における疾患ならびに全身に至る疾病を把握することは不可能である。口腔組織学において、如何に知識を融合させて修得できるか否かが、歯科医師としての成否を握っているといっても過言ではない。本教科は、他の基礎科目の基盤であり、さらに診断、治療方針のエビデンスとして役立てなければならない学問である。

2. 一般目標

疾病を治療対象とした基礎知識を得るために、細胞、組織、人体諸器官、さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ、それらの発生過程、加齢変化を理解する。

3. 到達目標

- 1) 細胞および上皮、結合、軟骨、骨、筋、神経組織の構造と機能を説明する。
- 2) 消化器、呼吸器、循環器、免疫性器官、内分泌器、泌尿生殖器、感覚器、中枢神経系各器官の構造と機能を説明する。
- 3) 歯と歯周組織および口腔粘膜、口腔腺の種類とそれらの微細構造を説明する。
- 4) 顔面および口腔の発生と加齢変化を説明する。

4. 履修の進め方

講義を主体として、媒体には穴埋めプリント、スライド、コンピューター画像、教科書、参考図書を用いて、細胞や組織像について説明を加える。

5. 準備学修

事前に当日の授業内容に関して、教科書を一読してくる(事前学習：10分)。講義後は、ノートとアトラスや教科書を照らし合わせ、細胞や組織の特徴と機能を把握する(事後学習：20分)。また、疑問点は、オフィスアワーを活用して解決する。

6. 評価方法

総括的評価として、組織学では総論(前期中間試験)と各論(前期定期試験)、口腔組織学では発生学、歯の三硬組織と歯髄(後期中間試験)、歯周組織、口腔諸器官、歯の発生および加齢変化(後期定期試験)において、計4回の記述試験(各25%)を行い、65点以上で合格とする。フィードバックは、不合格者に答案を開示して解説を行う。

7. 教本

磯川桂太郎、渡邊弘樹 他 著「組織学・口腔組織学」第4版 わかば出版 2014

8. 参考書

Alan Stevens 著、内山安男 他 訳「人体組織学」

原書第2版 南江堂 2004

久米川正好、戸田善久 他 著「口腔の発生と組織」南山堂 1998

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/7	組織学総論細胞学(1)	細胞の微細構造核の構造と機能	C-2-3) / 必5-ア	①
2	4/7	細胞学(2)	細胞小器官の構造と機能(1)	C-2-3) / 必5-ア	〃
3	4/13(月)	細胞学(3)	細胞小器官の構造と機能(2)	C-2-3) / 必5-ア	〃
4	4/13(月)	細胞学(4)	細胞膜の構造と機能、接着装置と接着分子	C-2-3), 4) / 必5-ア	〃
5	4/14	細胞学(5)	細胞骨格の構造、細胞周期と細胞分裂	C-2-3) / 必5-ア	〃
6	4/14	上皮組織(1)	上皮の形態的分類とその特徴、機能	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
7	4/21	上皮組織(2)	上皮の機能的分類、基底膜と接着装置	C-2-4), -3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
8	4/21	腺組織	外分泌腺の一般構造と分泌様式	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ6-オ	〃
9	4/28	結合組織(1)	結合組織の分類と存在する線維の種類	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
10	4/28	結合組織(2)	結合組織に存在する細胞の特徴と機能	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ア	〃
11	5/12	軟骨組織	軟骨組織の分類と特徴および微細構造	C-3-4) / 必5-ア	〃
12	5/12	骨組織(1)	骨組織の組織学的特徴とリモデリング	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
13	5/19	骨組織(2)	骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞の特徴と機能	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-イ, 9-ウ	〃
14	5/19	骨組織(3)	骨の発生と石灰化機序	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ9-ウ	〃
15	5/26	血液	血液とリンパの成分	C-3-4) / 必5-ア	〃
16	5/26	造血器	造血器と血球の形成過程	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-オ	〃
17	6/9	筋組織(1)	筋組織の分類、骨格筋の構造と収縮機構	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
18	6/9	筋組織(2)	心筋と平滑筋の特徴および微細構造	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-イ	〃
19	6/15(月)	神経組織(1)	神経系総論(神経細胞の分類と構造)	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
20	6／15 (月)	神経組織(2)	シナプスの形態学的特徴と神経伝達物質	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-キ	①
21	6／16	神経組織(3)	中枢神経と末梢神経の組織学的特徴	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
22	6／16	循環器系	血管系の構造と特徴および差異	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-ウ	〃
23	6／23	消化器系(1)	消化管の基本構造, 食道, 胃の組織学的特徴	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
24	6／23	消化器系(2)	小腸, 大腸の組織学的特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
25	6／30	消化器系(3)	肝臓, 膵臓の組織学的特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
26	6／30	呼吸器系	鼻腔, 気管, 肺の組織学的特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-ウ	②
27	7／7	泌尿器系	腎臓, 膀胱の組織学的特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-カ	〃
28	7／7	生殖器系	男性・女性生殖器官の構造と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-カ	〃
29	7／14	内分泌系	各内分泌器官の構造と分泌するホルモン	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-ク	①
30	7／14	免疫系	リンパ節, 胸腺, 脾臓の特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ3-ア	〃
31	9／1	感覚器系(1)	視覚器の組織学的特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
32	9／1	感覚器系(2)	嗅覚器, 聴覚・平衡感覚器の特徴と機能	C-3-4)／ 必5-ア 総Ⅱ1-キ	〃
33	9／8	顎・顔面の発生(1)	個体発生, 器官発生	C-3-2)／ 必6-ア	〃
34	9／8	顎・顔面の発生(2)	鰓弓, 鰓嚢, 鰓溝から形成される組織	E-2-3)／ 必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
35	9／15	顎・顔面の発生(3)	顔面と口蓋の形成	E-2-3)／ 必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
36	9／15	顎・顔面の発生(4)	舌, 唾液腺, 甲状腺, 下垂体の発生	E-2-3)／ 必6-ア 総Ⅱ9-ア	〃
37	9／29	口腔組織学概論	口腔・顔面を構成する組織学的特徴の概説	E-2-2)／ 必5-ア 総Ⅱ4-オ, 5-イ	〃
38	9／29	エナメル質(1)	エナメル質の基本構造と微細構造	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
39	10／6	エナメル質(2)	エナメル質の成長線と構造物	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	①
40	10／6	象牙質(1)	象牙質の基本構造と石灰化機構	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
41	10／13	象牙質(2)	象牙質の成長線と構造物	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
42	10／13	歯髄(1)	歯髄にみられる細胞と線維	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
43	10／20	歯髄(2)	歯髄表層の構造, 歯髄の脈管と神経	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
44	10／20	セメント質(1)	セメント質の基本構造	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
45	10／27	セメント質(2)	セメント質の分類と形成過程	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
46	10／27	歯根膜(1)	歯根膜の細胞と機能	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
47	11／10	歯根膜(2)	歯根膜線維の種類と走行	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
48	11／10	歯肉(1)	歯肉の分類および上皮の組織学的特徴	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
49	11／17	歯肉(2)	歯肉にみられる細胞と線維の特徴	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
50	11／17	歯槽骨	歯槽骨の区分と歯槽骨の形態学的特徴	E-3-1)／ 必5-ア 総Ⅱ5-イ	②
51	11／24	皮膚と粘膜, 口腔粘膜	皮膚と粘膜の基本構造, 口腔粘膜の分類と特徴	E-2-2)／ 必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
52	11／24	顎関節と扁桃	顎関節, 扁桃の構造と組織学的特徴	E-2-1)／ 必5-ア 総Ⅱ4-オ, 6-イ	〃
53	12／1	舌, 口蓋	舌, 硬口蓋と軟口蓋の組織学的特徴	E-2-2)／ 必5-ア 総Ⅱ4-オ	①
54	12／1	唾液腺	大唾液腺, 小唾液腺の組織学的特徴	E-2-2)／ 必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
55	12／8	歯の発生(1)	歯胚の構造と分化	E-3-1)／ 必6-ウ 総Ⅱ9-イ	③
56	12／8	歯の発生(2)	歯根および歯周組織の発生	E-3-1)／ 必6-ウ 総Ⅱ9-イ	〃
57	12／15	歯の発生(3)	エナメル質の形成と石灰化	E-3-1)／ 必6-ウ 総Ⅱ9-イ	①

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
58	12／15	歯の発生(4)	象牙質の形成と石灰化	E-3-1)／必6-ウ 総Ⅱ9-イ	①
59	12／22	口腔の加齢変化(1)	歯と歯周組織の加齢変化	E-2-3)／必6-エ 総Ⅱ8-エ 各V2-イ	②
60	12／22	口腔の加齢変化(2)	唾液腺、舌、顎関節の加齢変化	E-2-3)／必6-エ 総Ⅱ8-エ 各V2-イ	〃

口腔組織学実習（後期・1単位）

D②③－1403

科目責任者：安部 仁晴（組織・准教授）

科目担当者：①安部 仁晴（組織）、②中川 敏浩（組織）、
③荒木 啓吾（組織）、④山本 仁（客員）、
⑤釜田 朗（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

近年の歯科医学は、疾患の原因、病状の把握、更にはエビデンスに基づいた治療方針と病状の転帰を理解することが求められている。人体の正常構造と機能の理解なくしては、病変さらには治療方針を理解し把握することは不可能なことから、その基盤となる組織学、口腔組織学の修得が重要となる。本実習は、上皮、結合、筋、神経などの総論、消化器、呼吸器、循環器、内分泌などの各論、歯牙、歯周組織、舌、唾液腺、口蓋、扁桃、歯牙発生などの口腔組織について実習する。本実習は、講義で学んだ内容を自分自身の目で確認し、理解を深めることが主たる目的である。

2. 一般目標

人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために、光学顕微鏡を用いて、細胞、組織の正常構造、歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造、それらの発生過程の知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 上皮、腺、軟骨、骨、筋、血液、血管、神経の各細胞と組織、さらに骨発生について正しい診断と細部の名称を説明する。
- 2) 消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿生殖器系、感覚器系、中枢神経系の器官について、標本を診断し、組織の名称と機能を説明する。
- 3) 歯牙研磨標本と脱灰標本を観察し、エナメル質、象牙質、セメント質の微細構造を説明する。
- 4) 歯周組織の微細構造の特徴を説明する。
- 5) 歯牙発生の標本からエナメル質、象牙質、セメント質、歯周組織の形成機構を読み取る。
- 6) 口腔粘膜、唾液腺、舌、口蓋、扁桃など口腔諸器官の微細構造と機能を結びつけ説明する。

4. 履修の進め方

毎回画像説明を中心とした実習前講義を受け、各種細胞、組織の形態学的特徴を把握し、スケッチを行う。なお、媒体は光学顕微鏡を使う。さらに教科書、参考図書、スライド、PC画像、講義プリント等を使用する。

5. 準備学修

「組織学・口腔組織学実習の指針」を一読し、当日の実習内容を把握する。実習の指針に沿った内容で、毎回小テストを行うので、内容は必ず把握しておく（事前学習：20分）。実習後は、実習で描いた図と教科書やアトラスの図とを比較し、講義で学んだ内容の理解を深める（事後学習15分）。

6. 評価方法

組織学および口腔組織学の実習終了時に行う実習試験にて評価する。試験の合計点数（80％）に、出席状況（10％）とリクワイアメント（10％）を加え最終評価とし、65点以上で合格とする。フィードバックは、答案を開示して行う。

7. 教本

磯川桂太郎 他編「カラーアトラス口腔組織発生学」

第4版 わかば出版 2016

「組織学・口腔組織学実習の指針」 教室作成

8. 参考書

Paul R. Wheeler著 柴崎晋 監訳「カラーアトラス組織学」
西村書店 2010

相磯貞和 訳「人体組織図譜」原書第11版 南江堂 2011

9. 授業内容と日程

(コ:コアカリ記号, 国:国家試験出題基準, 担:担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3 4	9 / 1	上皮組織 筋組織	単層円柱上皮, 多列線毛上皮, 重層扁平上皮 平滑筋, 骨格 筋, 心筋	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ア, イ	① ② ③
5 6 7 8	9 / 8	軟骨組織 骨組織・骨の 発生	硝子, 弾性, 線維軟骨骨の 研磨標本と膜 内骨化, 軟骨 内骨化	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-イ, 9-ウ	〃
9 10 11 12	9 / 15	消化器系①	食道, 胃, 小 腸, 大腸	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-エ	〃
13 14 15 16	9 / 29	消化器系② 泌尿器系 内分泌系	肝臓, 膵臓, 腎臓, 副腎	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-エ, カ, ク	① ② ③ ⑤
17 18 19 20	10 / 6	呼吸器系 中枢神経系	気管, 肺, 小 脳, 脊髄	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ウ, キ	① ② ③
21 22 23 24	10 / 13	免疫系	リンパ節, 脾 臓, 胸腺	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ3-ア	〃
25 26 27 28	10 / 20	血液	血液の塗抹標 本	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-オ	〃
29 30 31 32	10 / 27	一般組織のま とめ	各組織と各器 官系のまとめ	C-3-4) / 必5-ア 総Ⅱ1-ア～キ 総Ⅱ3-ア	〃
33 34 35 36	11 / 10	歯の研磨標本	エナメル質, 象牙質, セメ ント質の微細 構造	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	① ② ③ ⑤
37 38 39 40	11 / 17	歯の脱灰標本	歯髄の構造と 細胞および血 管, 神経線維	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	① ② ③
41 42 43 44	11 / 24	歯周組織	歯根膜, 歯肉, 歯槽骨の微細 構造	E-3-1) / 必5-ア 総Ⅱ5-イ	〃
45 46 47 48	12 / 1	口唇, 軟口蓋, 舌	口唇, 軟口蓋, 舌乳頭(味蕾) の組織学的特 徴	E-2-2) / 必5-ア 総Ⅱ4-オ	〃
49 50 51 52	12 / 8	歯の発生	蕾状期, 帽状 期, 鐘状期の 歯胚	E-3-1) / 必6-ウ 総Ⅱ9-イ	① ② ③ ④
53 54 55 56	12 / 15	唾液腺	耳下腺, 顎下 腺, 舌下腺の 組織学的差異	E-2-2) / 必5-ア 総Ⅱ4-オ	① ② ③ ⑤

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
57 58 59 60	12 / 22	口腔組織学の まとめ	歯と歯周組織 および口腔諸 器官のまとめ	E-2-2), -3-1) / 必5- ア, 6-ウ 総Ⅱ 4オ, 5イ, 9イ	① ② ③

口腔生理学Ⅰ（通年・3単位）

D③－1304

科目責任者：川合 宏仁（生理・教授）

科目担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学は、細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され、その修復が困難な時に病気となる。それゆえ、正しい治療や予防措置を施すためには、病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり、それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することことはできないと言ってよい。講義には、近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち、独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され、多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として、生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学、あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では、臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し、把握することを目標とする。従って、学習に際しては、基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では、顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に十分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては、種々の生命現象を営む生体の機構、特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき、また、各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること、および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために、生体機能、生命現象の機序を理解する。

3. 到達目標

- 1) 生命現象を営む生体の機構を説明できる。
- 2) 各器官の協調活動を説明できる。
- 3) 歯科疾患の病態生理を説明できる。

4. 履修の進め方

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し、人体の構造、詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。

5. 準備学修

生物学や解剖学が生理学の基礎となるため、これらの科目と連動させて学習すること。予習は、シラバスで内容を確認して、教科書・参考書で学習する。復習は、講義内容について講義ノート（プリント）・教科書・参考書で学習する。履修後は、すべての科目につながるため、繰り返し学習することが重要である。

6. 評価方法

前期の定期試験、および後期の中間試験と定期試験の各試験において、65点以上を合格とする。65点未満の場合には再試験を行う。65点未満の再試験受験該当者は、再試験の点数が65点以上でも65点の採点結果とする。

前期の定期試験、および後期の中間試験と定期試験の合計

3回の平均点が、65点以上獲得した者を進級とする。

後期の中間試験の施行日に関しては、講義の進行具合をみて、変更することがあるので注意すること。

7. 教本

和泉博之・浅沼直和 編 「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2014

森本俊文・山田好秋ほか 編 第6版「基礎歯科生理学」医歯薬出版 2014

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／8	口腔生理学総論	口腔生理機能の意義および特徴	E-2-4)／各IV-1	③
2	4／15	興奮性組織（Ⅰ）	興奮性細胞の基本動作	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
3	4／22	興奮性組織（Ⅱ）	刺激と興奮のしくみ	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
4	5／11（月）	興奮性組織（Ⅲ）	イオンチャネル、活動電位発生のメカニズム	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
5	5／13	興奮性組織（Ⅳ）	興奮伝導のメカニズム	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
6	5／20	シナプス伝達	シナプスの種類と構造、伝達の特徴、神経伝達物質	C-2-3)／総Ⅲ-1	〃
7	5／27	感覚（Ⅰ）	感覚受容器と感覚の種類、感覚神経	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
8	6／3	感覚（Ⅱ）	体性感覚（触・圧・温度・痛覚）	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
9	6／10	感覚（Ⅲ）	特殊感覚（視覚、聴覚、平衡感覚・嗅覚）	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
10	6／17	咀嚼（Ⅰ）	咀嚼の生理的意義、咀嚼運動	E-2-1)／総Ⅳ-3	〃
11	6／24	咀嚼（Ⅱ）	咀嚼運動の神経・筋機構	E-2-1)／総Ⅳ-3	〃
12	6／29（月）	顎・口腔・顔面の体性感覚（Ⅰ）	歯髄感覚と歯痛、歯根膜感覚	C-2-3)／総Ⅲ-1	③
13	7／1	顎・口腔・顔面の体性感覚（Ⅱ）	顎顔面領域・口腔領域の体性感覚	E-2-1)／総Ⅳ-1, 3	〃
14	7／8	自律機能（Ⅰ）	自律神経系の構造、性質	C-2-3)／総Ⅲ-2	②
15	7／15	自律機能（Ⅱ）	自律神経の中樞性調節	C-2-3)／総Ⅲ-2	〃
16	9／2	自律神経（Ⅲ）	自律神経のシナプスと受容体	C-2-3)／総Ⅲ-3	③
17	9／2	血液（Ⅰ）	血液の役割	C-3-4)／総Ⅴ-6-ア	①
18	9／9	血液（Ⅱ）	細胞成分の種類と役割	C-3-4)／総Ⅴ-6-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
19	9／9	血液(Ⅲ)	血漿成分と機能	C-3-4)／ 総Ⅴ-6-ア	①
20	9／16	循環(Ⅰ)	体循環と肺循環、血管の特性	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
21	9／16	循環(Ⅱ)	心臓の構造と心筋の特性	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
22	9／23	循環(Ⅲ)	刺激興奮伝達系	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
23	9／23	循環(Ⅳ)	血圧と心拍の調節	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
24	9／30	呼吸(Ⅰ)	呼吸器の形態と呼吸運動	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
25	9／30	呼吸(Ⅱ)	ガスの交換・運搬、酸塩基平衡	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
26	10／7	呼吸(Ⅲ)	呼吸器の形態と呼吸運動	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
27	10／7	呼吸(Ⅳ)	スパイロメーターと肺気量	C-2-4)／ 総Ⅴ-6-ア	〃
28	10／14	口唇・頬・顔面・舌運動	口唇・頬・顔面筋運動の神経・筋機構	E-2-2)／ 総Ⅳ-3	③
29	10／14	口唇・頬・顔面・舌運動	舌反射、舌運動の神経・筋機構	E-2-2)／ 総Ⅳ-3	〃
30	10／21	唾液(Ⅰ)	唾液腺、唾液の種類と性状	E-2-2)／ 総Ⅳ-1, 3, 5	②
31	10／21	唾液(Ⅱ)	唾液腺の分泌機構と機能、唾液の生成機序	E-2-2)／ 総Ⅳ-1, 3, 5	〃
32	10／28	唾液(Ⅲ)	唾液腺の代謝と血流、唾液と口腔疾患	E-2-2)／ 総Ⅳ-1, 3, 5	〃
33	10／28	骨格筋の収縮	骨格筋の構造、効果器としての役割	E-2-2)／ 総Ⅳ-4	③
34	11／4	心筋・平滑筋の収縮	心筋・平滑筋の構造、効果器としての役割	E-2-2)／ 総Ⅳ-2, 3	〃
35	11／4	顎運動(Ⅰ)	咀嚼筋と顎関節の役割、咬合と顎位	C-2-3)／ 総Ⅲ-1	〃
36	11／11	顎運動(Ⅱ)	顎運動の神経機構、顎反射Ⅰ	E-2-1)／ 総Ⅳ-1, 3	〃
37	11／11	顎運動(Ⅲ)	顎運動の筋機構、顎反射Ⅱ	E-2-1)／ 総Ⅳ-1, 3	〃
38	11／18	味覚(Ⅰ)	味覚受容機構と中枢機序	E-2-2)／ 総Ⅱ-6-ア	〃
39	11／18	味覚(Ⅱ)	味覚障害と歯科臨床における味覚	E-2-2)／ 総Ⅱ-6-ア	〃
40	11／25	消化と吸収(Ⅰ)	消化と吸収の意義	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	②
41	11／25	消化と吸収(Ⅱ)	胃腸の構造と運動および神経支配	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
42	12／2	消化と吸収(Ⅲ)	消化液と栄養分の吸収	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	②
43	12／2	内分泌(Ⅰ)	ホルモンの種類と受容・作用機序	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	〃
44	12／9	内分泌(Ⅱ)	ホルモンの働きと機能、生体恒常性の液性調節	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	〃
45	12／9	内分泌(Ⅲ)	神経－液性調節の仕組み	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	〃

口腔生理学実習（後期・1単位）

D②③-0401

科目責任者：川合 宏仁（生理・教授）

科目担当者：①川合 宏仁（生理）、②大須賀謙二（生理）、
③古山 昭（生理）、④山崎 信也（麻醉）、
⑤加川千鶴世（小児）、⑥富田 祐介（非常勤）、
⑦辻 満（非常勤）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生理学実習の意義は、学生が講義で学んだことを目でみて理解することにある。講義で習得した知識を自ら実習で実証し、体系化した知識にして一層の理解を深めることである。実習では、動物あるいはヒトを対象に、いろいろな道具を用いて生物現象、運動および感覚機序がどのようなものであるかを体験し、教科書や講義の内容を十分に理解することが重要である。

実習を通じて、創意工夫を養い、注意深い観察、記録、考察ができるように努力することが必要である。

2. 一般目標

生体機能と生命機能の理解を深めるために、全身および口腔の機能について実体験する。

3. 到達目標

- 1) 心電図を測定できる。
- 2) 呼吸機能を測定できる。
- 3) 神経の興奮伝導速度を測定できる。
- 4) 筋の収縮機能を説明できる。
- 5) 血圧を測定できる。
- 6) 味覚閾値を測定できる。
- 7) 感覚点を測定できる。
- 8) 2点弁別閾を測定できる。
- 9) 咀嚼能率を測定できる。
- 10) 出血時間を測定できる。
- 11) 血液型を判定できる。

4. 履修の進め方

本実習では、一般生理学と口腔生理学に関する実習を12コマ行う。学生は、大きく4グループに分かれ各グループ毎に実習する。内容は、臨床に結びつく内容のため、実習と講義を織り交ぜながら学習する。実習後は、レポート作成を行い、復習を兼ねて、学生自ら知識の総まとめを行う。

5. 準備学修

オリエンテーション時に配布する実習予定表を確認して実習内容の予習を行う。実習後に課せられた課題について復習し、分からない点は解決するように努力する。

6. 評価方法

全出席することが実習試験の受験資格となる。

各グループで行う到達目標1)～11)をクリアした場合、40点満点として評価する。

各グループで課せられたレポートを30点満点として評価する。

各グループから出題された実習試験の結果を30点満点として評価する。

各グループ毎に、採点された結果を平均して、65点以上を合格とする。

レポートのフィードバックは添削して個人へ返却する。

7. 教本

「歯科生理学実習書」奥羽大学歯学部口腔生理学教室編
平成31年度版

「ビジュアル 生理学・口腔生理学」

「基礎 歯科生理学」

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

回	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/2	オリエンテーション	生理学実習を行う際の心構え、留意事項、レポート提出方法を伝達し、動物実験の3Rについて説明する。		① ② ③ ④ ⑤ ⑥
4 5 6	9/9	口腔内体性感覚	刺激毛、針、熱伝導子を用いて口腔内体性感覚の種類と分布を調べる。また、歯牙の触域値と位置感覚についても検査する。		
7 8 9	9/16	咀嚼機能	篩分法により咀嚼能率を求め、咀嚼能率に影響する因子を考える。		
10 11 12	9/23	血圧測定	触診法、聴診法による血圧測定を学ぶ。		
13 14 15	9/30	心電図	心電図を採得し、臨床生理学的意味を考察する。		
16 17 18	10/7	神経束の興奮伝導	カエルの坐骨神経標本による活動電位を記録後、興奮伝導速度を測定し、不応期および麻酔効果について学ぶ。		
19 20 21	10/14		C-3-4)、E-2-2)、F-2-2) 総Ⅱ-1-ウ、総Ⅱ-6-ア、総Ⅱ-8-ウ、総Ⅳ-1-ウ、総Ⅵ-1-イ、総Ⅵ-4-ア		
22 23 24	10/21	実習試験 1回目	実習内容に対する筆記試験		
25 26 27	10/28	換気機能	スパイロメータを用いて、時間肺活量を測定後、努力性肺活量や1秒率を評価し、換気機能障害について考察する。		① ② ③ ④ ⑤ ⑥
28 29 30	11/4	骨格筋の収縮	ヒトとカエルの骨格筋の収縮を観察し、筋収縮機構について考察する。		
31 32 33	11/11	味 覚	味覚感受性について、全口腔法、ろ紙法、あるいは電気味覚法により、閾値を調べ個人差を検討する。		
34 35 36	11/18	出血時間測定と血液型判定	出血時間の測定方法と血液型判定法を行い、そのしくみと判定する機序について学ぶ。		
37 38 39	11/25				
40 41 42	12/2		C-3-4)、E-2-2) 総Ⅱ-1-ウ、総Ⅱ-6-ア、総Ⅳ-1-ウ、オ、総Ⅵ-1-イ、総Ⅵ-3-ア、総Ⅵ-4-ア		
43 44 45	12/9	実習試験 2回目	実習内容に対する筆記試験		

口腔生化学Ⅰ（後期・1単位）

D③-1305

科目責任者：加藤 靖正（生化・教授）

科目担当者：①加藤 靖正（生化）、②鈴木 厚子（生化）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造ではないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅰでは、一般生化学として代謝を中心に学習し、医師やパラメディカルスタッフなどの医療従事者との間で共通の認識を養うことを目的とする。また、3年次で行われる口腔生化学Ⅱを理解するのに必要な知識の整理を行う。

2. 一般目標

生体を構成する成分や機能について、個々に理解を深めるとともに、異なる成分同士のつながりやホルモンなどにより巧妙に調節された機能などの分子メカニズムなどを理解する。また、代謝の破たんが原因となる疾患については、その成り立ちを生化学的側面から学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- 2) 遺伝情報の保存と発現について説明できる。
- 3) 代謝における酵素の働きを説明できる。
- 4) 糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序が説明できる。
- 5) 糖新生、脂質合成の機序を説明できる。
- 6) 代謝の破たんや疾病の成り立ちについて例を挙げて説明できる。

4. 履修の進め方

- 予習：教科書（該当箇所のページ）を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。
- 講義：予習内容の確認と知識の整理を行う。また、予習中に見出された疑問点を解決する。
- 復習：学修内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 準備学修

講義の項に該当する内容についてスタンダード生化学・口腔生化学 第3版（学研書院）を読み、予め疑問点を見出しておく（15分）。復習（20分）。

6. 評価方法

定期試験で65点以上を合格とする。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第3版（学研書院）

8. 参考書

口腔生化学 第6版（医歯薬出版）

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／2	核酸Ⅰ	核酸の種類と構造、半保存的複製	C-2／必5-ア	②

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
2	9／9	核酸Ⅱ	PCRの原理、遺伝子発現、タンパク質合成	C-2／必5-ア	②
3	9／16	核酸Ⅲ	ヌクレオチド代謝、痛風、Lesch-Nyhan症候群	C-2／必5-ア	〃
4	9／23	糖質Ⅰ	グリコシド結合とグリコシダーゼ、解糖系	C-2／必5-ア	①
5	9／30	糖質Ⅱ	シャトル、嫌氣的解糖、好氣的解糖	C-2／必5-ア	〃
6	10／7	糖質Ⅲ	酸化的リン酸化、電子伝達系	C-2／必5-ア	〃
7	10／14	糖質Ⅳ	基質準位のリン酸化、エネルギー収支	C-2／必5-ア	〃
8	10／21	糖質Ⅴ	ペントースリン酸経路、糖新生	C-2／必5-ア	〃
9	10／28	糖質Ⅵ	血糖調節	C-2／必5-ア	〃
10	11／4	脂質Ⅰ	脂質の分類、細胞膜とリン脂質、脂質の輸送	C-2／必5-ア	〃
11	11／11	脂質Ⅱ	脂質の消化吸収とリポ蛋白質	C-2／必5-ア	〃
12	11／18	脂質Ⅲ	脂肪酸代謝（ β 酸化）、飢餓と糖尿病とアシドーシス	C-2／必5-ア	〃
13	11／25	脂質Ⅳ	脂質の合成（脂肪酸、中性脂肪、グリセロリン脂質）	C-2／必5-ア	〃
14	12／2	脂質Ⅴ	脂質の合成（コレステロール）	C-2／必5-ア	〃
15	12／9	脂質Ⅵ	アラキドン酸代謝、エイコサノイド	C-2／必5-ア	〃

口腔感染免疫学Ⅰ（通年・2単位）

D③④-1501

科目責任者：清浦 有祐（感染・教授）

科目担当者：①清浦 有祐（感染）、②玉井利代子（感染）

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物について講義を行う。さらに微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで病原微生物を排除する。この免疫応答を担う白血球の様々な働きや抗体の作用について分子レベルまで掘り下げて詳しく説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。1) 微生物の種類とその特性を理解する。2) 病原微生物の病原性を理解する。3) 滅菌、消毒及び化学療法について理解する。4) 齲蝕と歯周病の原因菌を理解する。5) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物の種類とその特性を説明する。
- 2) 病原微生物の病原性を説明する。
- 3) 滅菌、消毒及び化学療法について説明する。
- 4) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に学習者に質問し、それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 準備学修

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので、当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと（15分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は記述式と多肢選択方式が含まれる。定期試験後に学生全員に模範解答を配布し、学生から意見があれば対応する。

7. 教本

口腔微生物学－感染と免疫－ 第6版 学建書院 2018年

8. 参考書

標準微生物学 第13版 医学書院 2019年

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／10	微生物概論Ⅰ	微生物の種類	C-4-1)-①／ 総Ⅲ-1-カ-b	① ②
2	4／17	微生物概論Ⅱ	各微生物の特徴	C-4-1)-①／ 総Ⅲ-1-カ-b	②
3	4／24	細菌の形態	細菌の形態と構造	C-4-1)-①／ 必5-イ-b	〃
4	5／8	細菌の毒素	細菌の毒素	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-b	〃
5	5／15	特殊な細菌	芽胞・リケッチア・クラミジア	C-4-1)-①／ 総Ⅲ-1-カ-b	〃
6	5／22	細菌の遺伝学と生理学	細菌の遺伝子伝達と増殖メカニズム	C-4-1)-①／ 必5-イ-b	〃
7	5／25 (月)	ウイルスの種類と特徴	ウイルスの特徴と種類	C-4-1)-①／ 総Ⅲ-1-カ-b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
8	5／29	感染症	新興感染症・再興感染症・輸入感染症・院内感染	C-4-1)-③／ 総Ⅲ-1-カ-c	②
9	6／5	細菌の病原因子	細菌の病原因子の特徴とその病原性のメカニズム	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-b	〃
10	6／12	細菌感染症Ⅰ	MRSA感染症	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-c	〃
11	6／19	細菌感染症Ⅱ	結核症	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-c	〃
12	6／26	細菌感染症Ⅲ	抗酸菌感染症	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-c	〃
13	7／3	細菌感染症Ⅳ	レンサ球菌感染症	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-c	〃
14	7／10	細菌感染症Ⅴ	大腸菌・赤痢菌・マイコプラズマ感染症	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-c	〃
15	7／17	真菌感染症	カンジダ症・クリプトコッカス症・アスペルギルス症・ニューモシスチス肺炎	C-4-1)-②／ 総Ⅲ-1-カ-c	〃
16	8／31	滅菌	滅菌法の種類とその特徴	C-4-1)-④／ 必12-エ-a	〃
17	9／7	消毒	消毒法の種類とその特徴	C-4-1)-④／ 必12-エ-a	〃
18	9／14	ヘルペスウイルス	ヘルペスウイルスの種類	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
19	9／28	B型肝炎ウイルス	B型肝炎ウイルスの病原性	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
20	10／5	C型肝炎ウイルス	C型肝炎ウイルスの病原性	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
21	10／12	ヒト免疫不全ウイルス	ヒト免疫不全ウイルスの病原性	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
22	10／19	ヒトT細胞白血病ウイルス	ヒトT細胞白血病ウイルスの病原性	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
23	10／26	動物介在ウイルス感染症	節足動物などの動物を介するウイルス感染症	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
24	11／2	寄生虫感染症	原虫を含む寄生虫感染の種類	C-4-1)-①、 ②／総Ⅲ-1-カ-b	〃
25	11／9	微生物に対する化学療法	抗ウイルス薬・抗真菌薬の種類と作用メカニズム	C-4-1)-⑤／ 総Ⅶ-8-ウ	〃
26	11／16	自然免疫	自然免疫の役割とその特徴	C-4-2)-①／ 総Ⅱ-3-ウ	①
27	11／30	獲得免疫	獲得免疫の役割とその特徴	C-4-2)-②／ 総Ⅱ-3-エ-a,b	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
28	12／7	抗原	抗原の種類と特徴	C-4-2)-①, ②, ③／総Ⅱ-3-イ	①
29	12／14	抗体Ⅰ	IgGとIgAについて	C-4-2)-②／総Ⅱ-3-エ-b	〃
30	12／21	抗体Ⅱ	IgEとIgM及びIgDについて	C-4-2)-②／総Ⅱ-3-エ-b	〃

歯科薬理学Ⅰ（後期・1単位）

D③④-1502

科目責任者：鈴木 礼子（薬理・准教授）

科目担当者：①鈴木 礼子（薬理）

1. 科目の概要

歯科薬理学の履修意義は、歯科臨床において適切な処方ができ、また、患者が他科で処方された薬についても十分に理解できるようになることである。本科目では、薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学について、講義主体で学修する。

2. 一般目標

歯科医療現場において、個々の患者の背景を理解し、思いやりを持った言動ができるようになるため、更に、安全かつ適確に薬物を使用できるようになるため、薬理学の基礎的な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 薬物療法について説明できる。
- 2) 薬理作用の基本形式、分類、用量と作用の関係について説明できる。
- 3) 薬物の作用機序を分類し、説明できる。
- 4) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現について説明できる。
- 5) 薬物の適用方法を分類し、その特徴を説明できる。
- 6) 薬物の連用と薬物依存について説明できる。
- 7) ライフステージに応じた、医薬品を適用する際の注意点を説明できる。
- 8) 薬物の副作用・有害反応、相互作用を説明できる。
- 9) 薬物と医薬品の関係を説明できる（医薬品医療機器等法、日本薬局方、処方せん）。

4. 履修の進め方

講義主体で、スライドと資料を使用して履修する。

5. 準備学修

事前に、各回の授業内容を確認し、教科書の該当部分を読むこと。その際、授業内容に関連する基礎知識（既に他科目で学修した事項）で不確実な事項があれば、復習しておくこと（30分）。授業後は、配布プリントの復習課題に取り組み、毎回の授業内容を確実にすること（30分）。

6. 評価方法

定期試験（100％）で評価し、65点以上で合格とする。試験のフィードバックは、配布物等により適宜行う。

7. 教本

鈴木邦明ほか「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学」第2版 医歯薬出版 2018

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	薬理学総論1：薬物の作用1	薬物療法の種類、薬理作用の基本形式・分類	C-6-2)／必12-コ、総Ⅶ-8-ア	①
2	9／11	薬理学総論2：薬物の作用2	用量－反応関係	C-6-2)／必12-コ、総Ⅶ-8-イ	〃
3	9／18	薬理学総論3：薬物の作用3	受容体を介する薬物の作用	C-6-2)／必12-コ、総Ⅶ-8-ア	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	9／25	薬理学総論4: 薬物の作用4	受容体を介さない薬物の作用	C-6-2)／ 必12-コ, 総VII-8-ア	①
5	10／2	薬理学総論5: 薬物動態1	吸収・分布	C-6-3)／ 必12-コ, 総VII-8-ア	〃
6	10／9	薬理学総論6: 薬物動態2	代謝・排泄	C-6-3)／ 必12-コ, 総VII-8-ア	〃
7	10／16	薬理学総論7: 薬物の適用方法の種類と特徴	薬物の適用方法の種類と特徴	C-6-3)／ 必12-コ, 総VII-8-イ	〃
8	10／23	薬理学総論8: 薬物の作用に影響を与える因子1	薬物の効果に影響する因子・薬力学的薬物相互作用	C-6-2)／ 必12-コ, 総VII-8-イ	〃
9	10／30	薬理学総論9: 薬物の作用に影響を与える因子2	薬物の連用、依存性薬物、薬物動態学的薬物相互作用	C-6-2)／ 必12-コ, 総VII-8-イ	〃
10	11／6	薬理学総論10: 薬物の副作用・有害反応1	薬物の一般的副作用・有害反応	C-6-4)／ 必7-イ, 総VII-8-イ	〃
11	11／13	薬理学総論11: 薬物の副作用・有害反応2	口腔領域に現れる薬物の副作用・有害反応、薬害	C-6-4)／ 必8-エ, 総VII-8-イ	〃
12	11／20	薬理学総論12: 医薬品を適用する際の注意	服薬指導、ライフステージと薬物	C-6-3)／ 必12-コ, 総VII-8-イ	〃
13	11／27	薬理学総論13: 薬物と医薬品1	日本薬局方、医薬品医療機器等法、医薬品の分類	C-6-1)／ 必2-イ	〃
14	12／4	薬理学総論14: 薬物と医薬品2	医薬品の管理と取り扱い、処方せん	C-6-1)／ 必2-イ	〃
15	12／11	薬理学総論15: 薬物と医薬品3	医薬品の開発	C-6-1)／ 必2-ウ	〃

生体材料・歯科材料学Ⅰ（後期・2単位）

D③④—1503

科目責任者：岡田 英俊（材料・教授）

科目担当者：①岡田 英俊（材料）、②石田 喜紀（材料）

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料、無機材料、有機材料、およびこれらを複合した材料があり、印象用、模型用、義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は、これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学、化学、および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて、材料毎に所要性質、構成成分、その役割、物理化学的および機械的性質などを理解するとともに、それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師となるうえで、治療に必要な機材、材料の知識を当該科目にて学修する。

3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用方法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し、視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また、学生は板書の内容、教科書およびレジュメの書き込みを行い理解を深める。各項目終了後に配布するプリントを解かせ、次の授業で解説を行う。

5. 準備学修

各回の授業内容項目について、教科書の該当部分を読むこと（15分）。

授業内容について教科書にある図表を確認する（15分）。

6. 評価方法

定期試験で評価する。65点以上を合格とする。試験問題は選択式とする。

7. 教本

中嶋 裕 他 「スタンダード歯科理工学第7版」 学建書院 2019年

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	9／4	歯科材料学総論(1)	歯科材料、生体材料の物理的・化学的性質について	D-1, -2／ 総Ⅷ	①
2	9／4	歯科材料学総論(2)	歯科材料、生体材料の物理的・化学的性質について	D-1, -2／ 総Ⅷ	〃
3	9／11	歯科材料学総論(3)	歯科材料、生体材料の物理的・化学的性質について	D-1, -2／ 総Ⅷ	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
4	9／11	歯科材料学総論(4)	歯科材料, 生体材料の物理的・化学的性質について	D-1, -2／総Ⅷ	①
5	9／18	歯科材料学総論(5)	歯科材料, 生体材料の物理的・化学的性質について	D-1, -2／総Ⅷ	〃
6	9／18	予防充填材料	予防材料の成分と特性	D-2／総Ⅷ-5, 15	②
7	9／25	歯質の切削(1)	歯質切削の理論と使用する機械・器材	D-1／総Ⅷ-2	〃
8	9／25	歯質の切削(2)	歯質切削の理論と使用する機械・器材	D-1／総Ⅷ-2	〃
9	10／2	成形修復材(1)	成形修復材の分類と所要性質	D-2／総Ⅷ-5	①
10	10／2	成形修復材(2)	コンポジットレジン成分, 特性および操作法(1)	D-2／総Ⅷ-5	〃
11	10／9	成形修復材(3)	コンポジットレジン成分, 特性および操作法(2)	D-2／総Ⅷ-5	〃
12	10／9	成形修復材(4)	歯質接着理論	D-2／総Ⅷ-5	〃
13	10／16	成形修復材(5)	酸処理剤	D-2／総Ⅷ-5	〃
14	10／16	成形修復材(6)	接着性モノマー	D-2／総Ⅷ-5	〃
15	10／23	成形修復材(7)	歯質に対する接着操作	D-2／総Ⅷ-5	〃
16	10／23	成形修復材(8)	グラスアイオノマーセメント	D-2／総Ⅷ-5	〃
17	10／30	歯科用印象材(1)	印象採得概説, 印象材の分類および所要性質	D-2／総Ⅷ-3	②
18	10／30	歯科用印象材(2)	弾性印象材の種類, 成分および性質(1)	D-2／総Ⅷ-3	〃
19	11／6	歯科用印象材(3)	弾性印象材の種類, 成分および性質(2)	D-2／総Ⅷ-3	〃
20	11／6	歯科用印象材(4)	弾性印象材の種類, 成分および性質(3)	D-2／総Ⅷ-3	〃
21	11／13	歯科用印象材(5)	弾性印象材の種類, 成分および性質(4)	D-2／総Ⅷ-3	〃
22	11／13	歯科用印象材(6)	非弾性印象材の種類, 成分および性質	D-2／総Ⅷ-3	〃
23	11／20	歯科用模型材	模型材料の成分, 特性および使用法	D-2／総Ⅷ-3	〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
24	11／20	歯科用合金(1)	歯科用合金の種類と特性	D-1／総Ⅷ-6	①
25	11／27	歯科用合金(2)	貴金属合金(1)	D-1／総Ⅷ-6	〃
26	11／27	歯科用合金(3)	貴金属合金(2)	D-1／総Ⅷ-6	〃
27	12／4	歯科用合金(4)	非貴金属合金	D-1／総Ⅷ-6	〃
28	12／4	歯科用合金(5)	金属の熱処理, 加工硬化	D-2／総Ⅷ-6	〃
29	12／11	歯科用合金(6)	金属の接合	D-2／総Ⅷ-6	〃
30	12／11	矯正用材料	矯正用材料の成分と特性	D-2／総Ⅷ-6	②

公衆衛生学（後期・1単位）

D③-1306

科目責任者：小林美智代（衛生・講師）

科目担当者：①小林美智代（衛生・講師）

1. 科目の概要

公衆衛生学は、個人ではなく「集団」を主な対象とし、社会全体の健康増進と疾病予防に対する解決策を求めていく学問である。歯科医師は、公衆衛生の向上・増進に寄与することが求められる。本科目では、その基礎となる公衆衛生学の基本としくみ、疫学的手法による疾病への関わりや生活環境対策、人口問題などについて講義を行う。

2. 一般目標

学修者が歯科医師として必要な公衆衛生的な考え方を学び、社会や環境が求める必要性に対して、的確に対応し解決できる能力を身につける。

3. 到達目標

- 1) 健康の概念と予防の段階を説明出来る。
- 2) 疫学の研究方法及その活用を説明出来る。
- 3) 感染症の成り立ちとその予防策を説明出来る。
- 4) 公害や地球環境破壊と健康との関わりを説明出来る。
- 5) 食品衛生と栄養摂取基準を説明出来る。
- 6) 人口構造の変化と疾病構造との関連を説明出来る。

4. 履修の進め方

講義主体で資料を併用して履修する。

5. 準備学修

各回の授業範囲について教科書該当部分を読むこと（15分）。

6. 評価方法

定期試験にて65点以上を合格とする。

7. 教本

安井利一 他 編 スタンダード衛生・公衆衛生 学建書院 2019

8. 参考書

なし。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	8／31	公衆衛生概論	公衆衛生学概要，公衆衛生学の歴史，国際保健協力	A-7-2)，B-1／必4-ア，総I-1-ア，総I-5-ア	①
2	9／7	公衆衛生と健康の概念	健康の定義と自然史，健康保持増進対策	B-1，B-3-1)／必2-ア，必4-ア，総I-1-ア，エ	〃
3	9／14	疫学	疫学の概念，疫学要因	B-4-1)／総論I-6-ア	〃
4	9／28	疫学	疫学の方法（記述疫学，分析疫学，実験疫学，臨床疫学）	B-4-1)／必2-ウ，総論I-6-ア	〃
5	10／5	疫学	疫学研究の実際（スクリーニング検査，統計手法）	B-4-1)／必2-ウ，総I-6-ア	〃
6	10／12	授業前段階総括	1～5回の講義範囲の総括と問題演習		〃

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
7	10／19	疾病予防と健康管理	疾病予防の概念，感染症の予防，感染症関連法規	A-6-3)，B-3-1)／総I-7-ア	①
8	10／26	疾病予防と健康管理	院内感染の予防，生活習慣病の予防，保健医療の統計調査	A-6-3)，B-3-1)／必2-カ，総I-7-ア	〃
9	11／2	環境と健康	環境関連法規，環境問題，上下水道，大気と大気汚染	B-2-4)／総I-9-ア	〃
10	11／9	環境と健康	温熱環境，放射線，廃棄物	B-2-4)／総I-9-ア	〃
11	11／16	食生活と健康	日本人の食事摂取基準，食品保健	B-1)／総I-8-ア，イ	〃
12	11／30	食生活と健康	食中毒の予防	B-1)／総I-8-ア，イ	〃
13	12／7	人口問題	人口静態統計，人口指数，割合，生命表	B-4-2)／総I-6-イ	〃
14	12／14	人口問題	人口動態統計（出生，死亡の指標）	B-4-2)／総I-6-イ	〃
15	12／21	人口問題	社会環境と人口	B-4-2)／総I-6-イ	〃

総合演習2D（通年）

D①②③④－1600

科目責任者：玉井利代子（感染・准教授）

科目担当者：①玉井利代子（感染）、②荒木 威（物理）、
③阿部 匡聡（化学）、④竜 立雄（矯正）、
⑤宇佐美晶信（解剖）、⑥安部 仁晴（組織）、
⑦川合 宏仁（生理）、⑧加藤 靖正（生化）、
⑨清浦 有祐（感染）、⑩鈴木 礼子（薬理）、
⑪岡田 英俊（材料）、⑫菊地 尚志（物理）、
⑬斎藤昇太郎（化学）、⑭今井 元（生物）、
⑮前田 豊信（生化）、⑯大須賀謙二（生理）、
⑰古山 昭（生理）、⑱御代田 駿（外科）、
⑲芹川 雅光（解剖）、⑳小林美智代（衛生）

※この科目は、診療経験のある歯科医師が担当する

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を総合的に理解することを目的として、2学年までに履修する科目を中心に、知識の確認を行う。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために、その基礎となる知識の習得を目指す。

3. 到達目標

- 物質の物理的、電磁的な性質に関する基礎的な原理・法則を説明できる。
- 基本的な無機化合物と有機化合物の構造・性質・反応を説明できる。
- 歯科専門用語、歯科疾患およびその治療法を英語で説明できる。
- 人体の正常な形態と構造を説明できる。
- 細胞、組織、口腔諸器官の正常微細構造と発生過程を説明できる。
- 生体機能、生命現象の機序を説明できる。
- 生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- 病原微生物、生体防御のメカニズムおよび感染防御手段（滅菌、消毒、化学療法）について説明できる。
- 薬物の適用方法と体内動態、薬理作用と作用機序、副作用について説明できる。
- 生体材料・歯科材料の組成、特性および正しい使用法を説明できる。
- 集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を説明できる。

4. 履修の進め方

問題演習を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 準備学修

各科目に準ずる。

6. 評価方法

2月に行われる総合試験の得点に前期・後期にて実施される実力試験の各得点の10％分を加えた合計が70点以上で合格とする。

7. 教本

各科目指定の教本に準ずる。

8. 参考書

各科目指定の参考書に準ずる。

9. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
1	4／6 4限	総合演習	基礎物理学	E-1-2)／ 必13-イ	②
2	7／6 4限	総合演習	基礎物理学	E-1-2)／ 必13-イ	〃
3	7／6 5限	総合演習	基礎生物学	C-2-3)／ 必5-ア	⑭
4	7／6 6限	総合演習	基礎生物学	C-3-2)， E-2-3)／ 総Ⅱ-9-ア	〃
5	7／6 7限	総合演習	基礎化学	C-1-1)／ 必13-イ	⑬
6	7／13 4限	総合演習	統計数理学	B-4)／ 必13-イ	⑫
7	7／13 5限	総合演習	基礎化学	C-1-1)／ 必13-イ	⑬
8	7／13 6限	第1回実力試験	第2学年前期 全科目(教養 科目を含む)		
9	7／13 7限	第1回実力試験	第2学年前期 全科目(教養 科目を含む)		
10	8／31 4限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
11	8／31 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／必 5-ア，必13- イ，総Ⅷ-1	③
12	8／31 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2-3)／ 総Ⅲ-1	⑰
13	8／31 7限	総合演習	口腔感染免疫 学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
14	9／7 4限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
15	9／7 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／必 5-ア，必13- イ，総Ⅷ-1	③
16	9／7 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2-3)／ 総Ⅲ-1	⑰
17	9／7 7限	総合演習	口腔感染免疫 学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
18	9／14 4限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
19	9／14 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／必 5-ア，必13- イ，総Ⅷ-1	③
20	9／14 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	⑰
21	9／14 7限	総合演習	口腔感染免疫 学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨
22	9／28 4限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
23	9／28 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／ 必5-ア， 必13-イ	③
24	9／28 6限	総合演習	口腔生理学Ⅰ	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	⑰
25	9／28 7限	総合演習	口腔感染免疫 学Ⅰ	C-4-1)／ 総Ⅲ-1-カ	① ⑨

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
26	10／5 4限	総合演習	解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑤
27	10／5 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／ 必5-ア, 必13-イ	③
28	10／5 6限	総合演習	口腔生理学 I	C-2-3)／ 総Ⅲ-2	⑭
29	10／5 7限	総合演習	口腔感染免疫 学 I	C-4-2)／ 総Ⅱ-3	① ⑨
30	10／12 4限	総合演習	解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑤
31	10／12 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／ 必5-ア, 必13-イ	③
32	10／12 6限	総合演習	口腔組織学	C-2-3)／ 必5-ア	⑥
33	10／12 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／必 5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
34	10／19 4限	総合演習	解剖学	C-3-4), E-2-1)／ 必5-ア	⑤
35	10／19 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／ 必5-ア, 必13-イ	③
36	10／19 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ1-ア	⑥
37	10／19 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
38	10／26 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
39	10／26 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／ 必5-ア, 必13-イ	③
40	10／26 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ 1-イ, 9-ウ	⑥
41	10／26 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／必 5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
42	11／2 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
43	11／2 5限	総合演習	化 学	C-1-1)／ 必5-ア, 必13-イ	③
44	11／2 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／必 5-ア, 総Ⅱ1- イ, オ, キ	⑥
45	11／2 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／必 5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
46	11／9 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
47	11／9 5限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫

回	月日	タイトル	授業内容	コ／国	担
48	11／9 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-4)／必 5-ア, 総Ⅱ1- エ～ク	⑥
49	11／9 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／必 5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
50	11／16 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
51	11／16 5限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
52	11／16 6限	総合演習	口腔組織学	C-3-2), E-2-3)／ 必6-ア, 総Ⅱ-9-ア	⑥
53	11／16 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
54	11／30 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑮
55	11／30 5限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
56	11／30 6限	総合演習	口腔組織学	E-3-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ-5-イ	⑥
57	11／30 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
58	12／7 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑮
59	12／7 5限	第2回実力試 験	第2学年後期 全科目(教養 科目を含む)		
60	12／7 6限	第2回実力試 験	第2学年後期 全科目(教養 科目を含む)		
61	12／7 7限	第2回実力試 験	第2学年後期 全科目(教養 科目を含む)		
62	12／14 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑮
63	12／14 5限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	⑫
64	12／14 6限	総合演習	口腔組織学	E-3-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ-5-イ	⑥
65	12／14 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮
66	12／21 4限	総合演習	口腔解剖学	E-3-1)／ 総Ⅱ-5-ア	⑤
67	12／21 5限	総合演習	物理学	D-1)／ 必13-イ	②
68	12／21 6限	総合演習	口腔組織学	E-3-1)／ 必5-ア, 総Ⅱ-5-イ	⑥
69	12／21 7限	総合演習	生物学	C-3-4)／ 必5-ア, 総Ⅱ -1-ア～ク	⑮